

村民アンケート結果 について

～総合戦略策定のための村民アンケート結果を報告いたします。～

アンケート調査の実施に当たり、ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

このアンケート調査は、急速に進展する少子高齢化に対応し、人口減少に歯止めをかけ、将来にわたって活力ある地域社会を維持することを目的に策定を進めている「木島平村人口ビジョン」と「木島平村総合戦略」の基礎資料として社会生活や結婚、子育てなどに関して村民の皆様の意向を調査したものです。

本調査結果を踏まえ、総合戦略策定委員会が中心になり、平成 28 年 2 月の計画策定を目標に作業を進めておりますので、村民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

平成 27 年 11 月 総務課 政策情報係

アンケート調査結果概要

ページ	項目	対象者
1	社会生活と定住・人口減少問題等に関する村民意識調査	20～89 歳 1,000 人
9	中学生へのアンケート調査	中学 3 年生 41 人
11	高校生へのアンケート調査	高校生 130 人
14	19 歳～24 歳の若者向けアンケート調査	19 歳～24 歳 150 人
18	結婚・妊娠・出産・子育てに関する村民意識調査	20～39 歳 500 人
23	転入された方へのアンケート調査	H22 年～H26 年に転入した世帯 162 世帯
25	転出された方へのアンケート調査	H24 年～H26 年に転出した世帯 67 世帯
28	村内観光関連事業者に対する意識調査	観光事業者 37 事業者
33	北信管内の事業者に対する意識調査	北信管内の事業所 30 社 (従業員 10 人以上)

社会生活と定住・人口減少問題等に関する村民意識調査

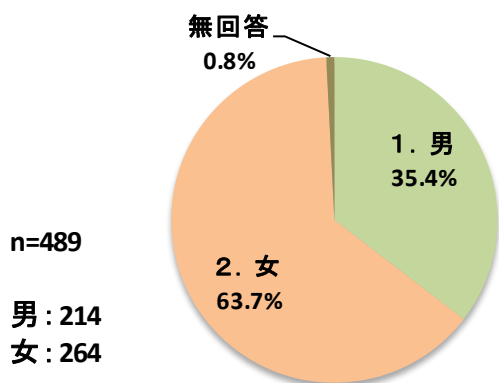
1. 調査概要

調査対象先：20～89歳までの村民から無作為に抽出し1,000人
 回答者数：489人（回収率：48.9%）
 調査期間：平成27年6月11日（木）（発送日）～平成27年6月25日（木）
 調査方法：郵送配布・郵送回収
 調査内容：木島平村に対する満足度、定住意向、人口減少問題に対する住民意識と村への要望を探る

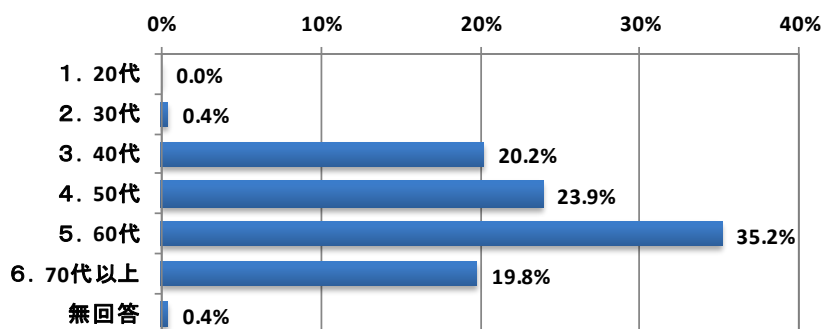
※四捨五入の関係から、構成比の合計が100%にならない箇所があります。

2. 回答者属性

(1) 性別

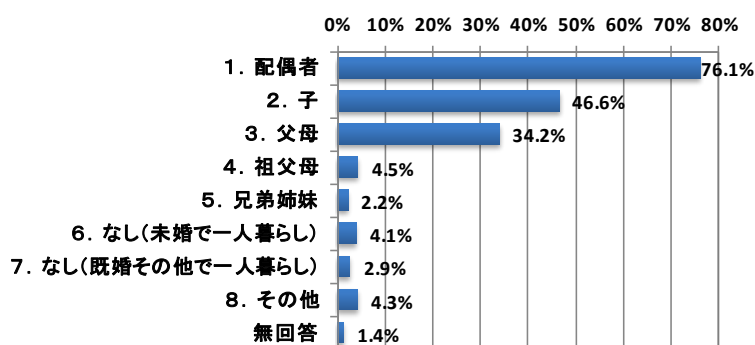


(2) 年齢

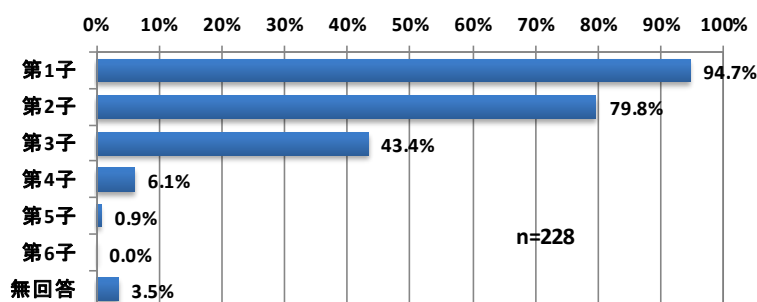


3. 家族構成等

(1) 家族構成



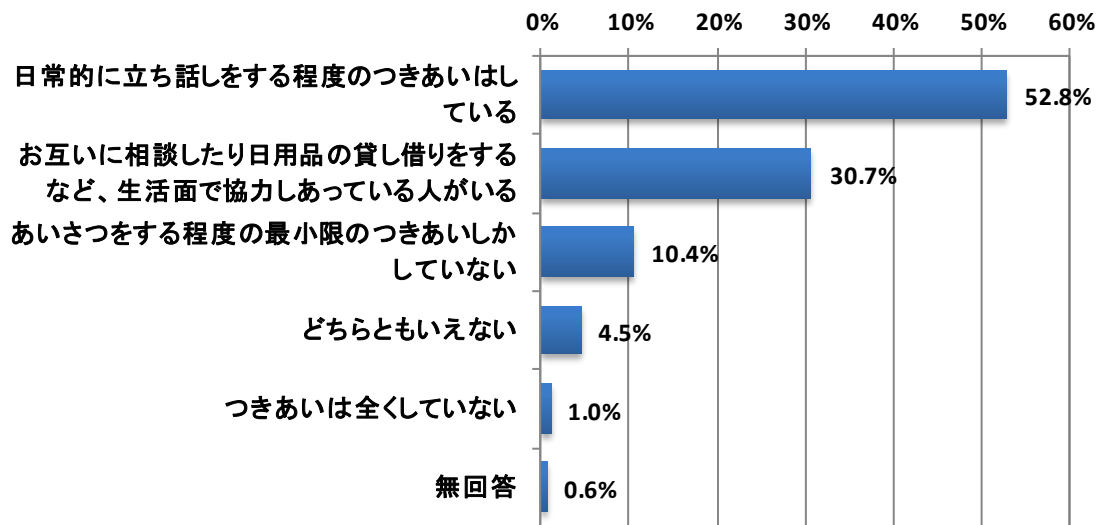
(2) 子どもがいる場合の人数



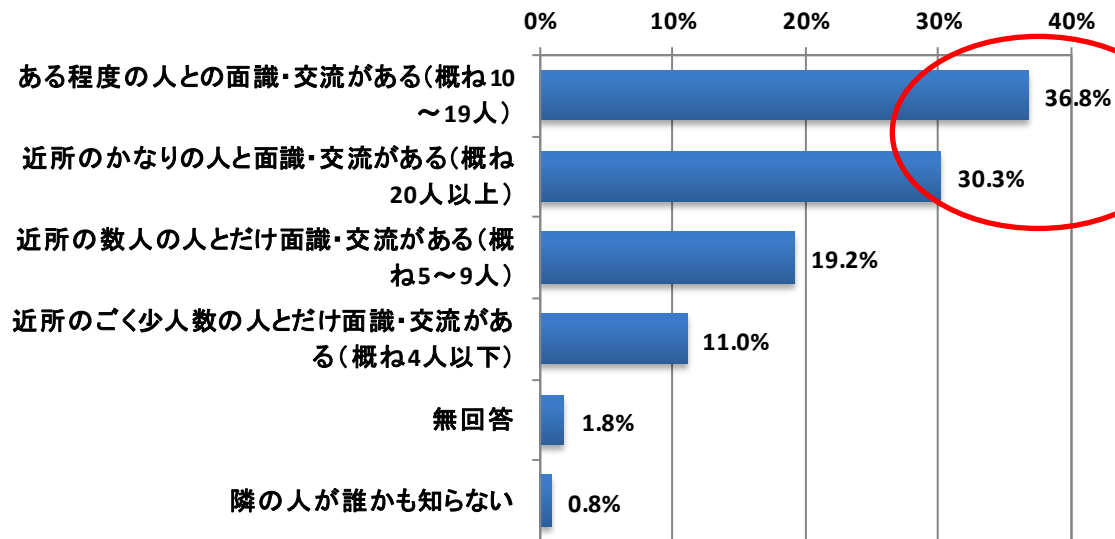
アンケート結果を踏まえた重点事業の方向性

● 日常のおつきあい

<ご近所のかたとのおつきあい>



<つきあっている人数>

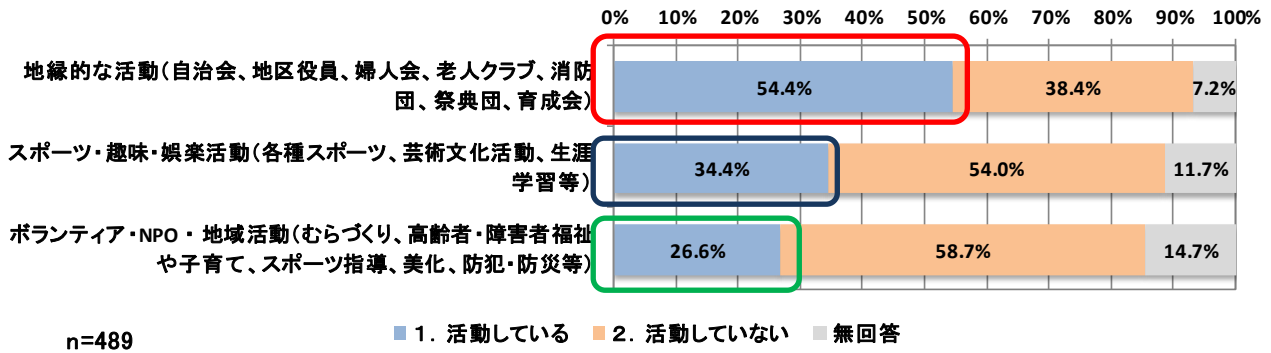


<ポイント>

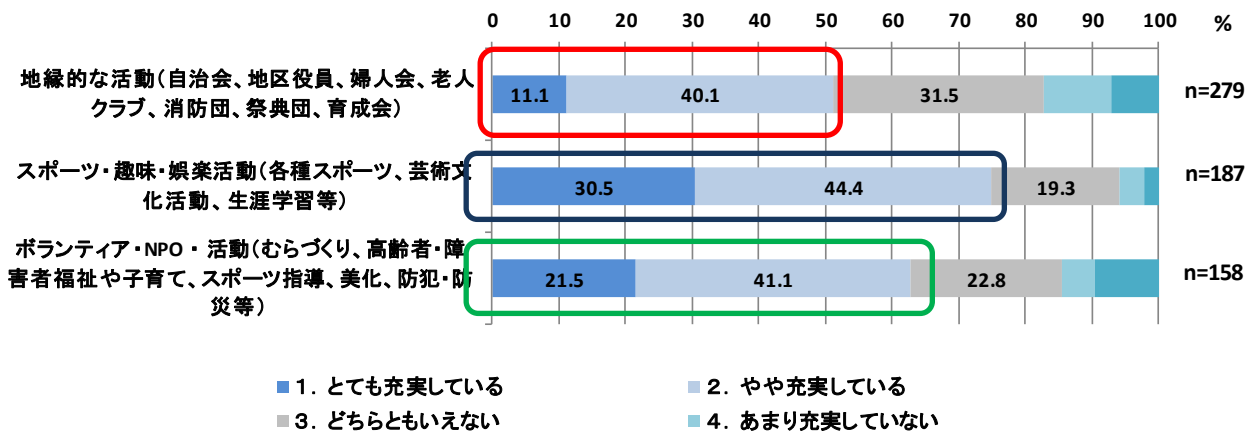
- ・木島平村は、概ねご近所づきあいが良好です。 日常におつきあいしている人数も10人以上いると回答したひとが67%に達しています。
- ・つまり、村民どうしが協力し合える環境にあると言えます。 今後、村との距離が近くなることで、各施策が円滑に展開できる期待があります。

●地域活動と充実度

<活動内容>



<充実度>

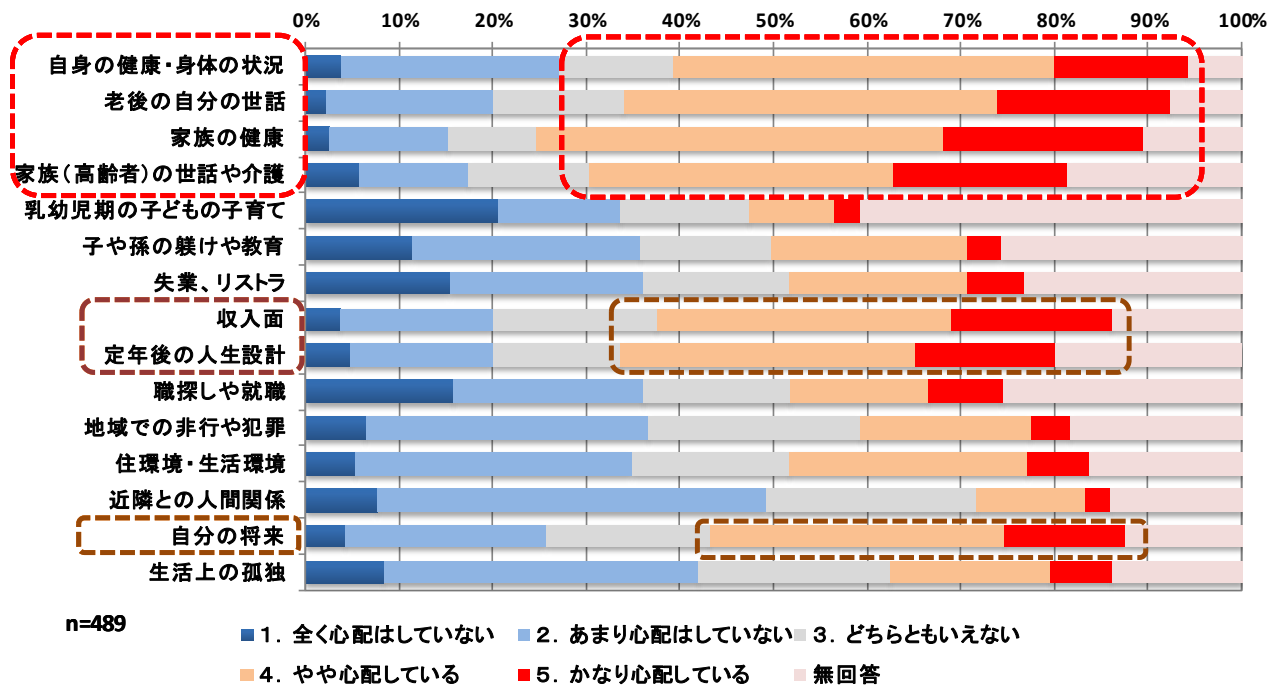


<ポイント>

- ・地域活動をみると、「地縁的な活動」については参加率が54.4%と過半数を超えていますが、それ以外の参加率は低位に留まっています。「スポーツ・趣味・娯楽活動」、「ボランティア・NPO・地域活動」の参加機会が少ないのか、村民の関心がまだ低いのかを考える必要があります。
- ・充実度をみると、各項目とも過半を超えていますが、参加率が高い「地縁的な活動」の充実度が高いとはいえません。「スポーツ・趣味・娯楽活動」、「ボランティア・NPO・地域活動」は参加率が低い反面、参加している人の充実度は高いです。村民は、従来の地縁的活動からスポーツ・趣味・娯楽など、「生きがい」「やりがい」「健康」を目的とした活動を望んでいると推察されます。

●日常生活の満足度

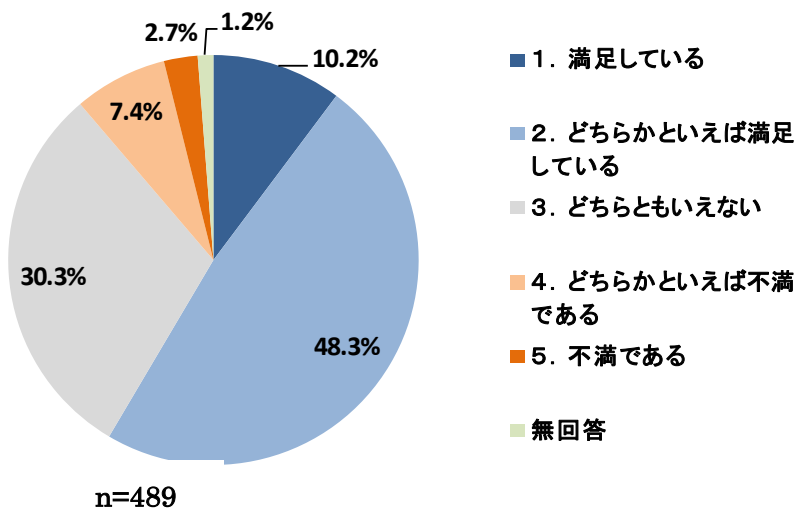
<村民の心配事、関心事>



<ポイント>

- ・「日常生活の中で心配事がありますか」という質問に対して、「心配している」と答えた割合が「心配していない」と答えた割合を項目別にみると、上図の点線で囲った7つです。
- ・赤の点線の4つについては、「心配している」割合が5割近くに達しています。「健康」「老後」「介護」が村民の最大の関心事です。
- ・また、茶色の点線の3つについても、4割程度の「心配」項目になっています。「収入」「定年後」「将来」など、将来に対しての経済面での不安の声が高いと思われます。
- ・近隣との人間関係、住環境・生活環境については、心配度はそれほど高くありません。「乳幼児期の子どもの子育て」については「全く心配していない」が最も高く20%を超えています。「子や孫の躾けや教育」「地域での非行や犯罪」についても「心配していない」割合の方が「心配している」割合よりも多く、概ね子育てや子どもの教育環境は良好といえそうです。

<自分自身の生活における総合的な満足度>

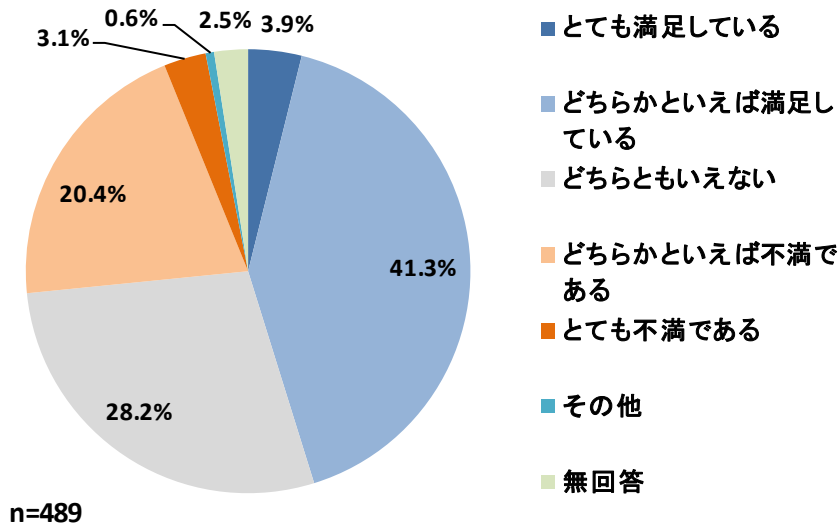


<ポイント>

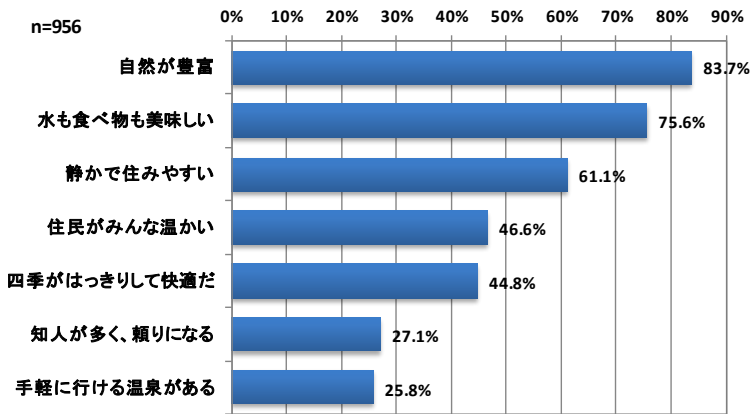
- ・「人とおつきあい」「自分や家族の心配事」など様々な問題がある中で、村民の6割弱が「生活に満足している」と答えています。
- ・ただ、3割の村民が「どちらともいえない」としていますので、意識の中に潜んでいる何らかの心配事が回答を迷わせている可能性があります。

●村に対する満足度

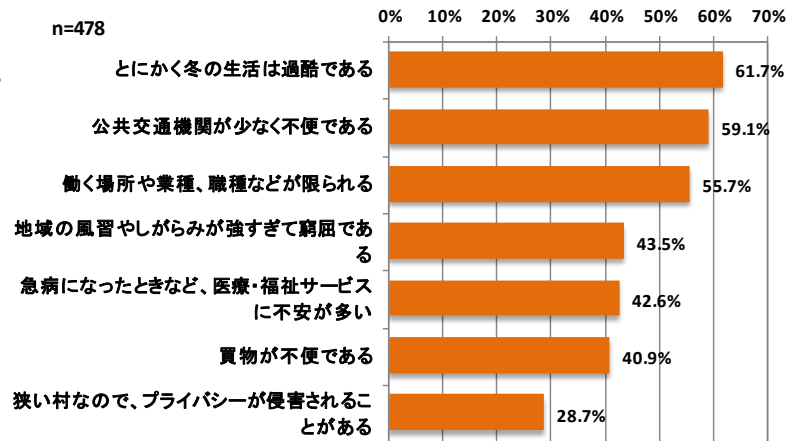
<満足度>



<どんな点に満足しているか>



<どんな点が不満か>



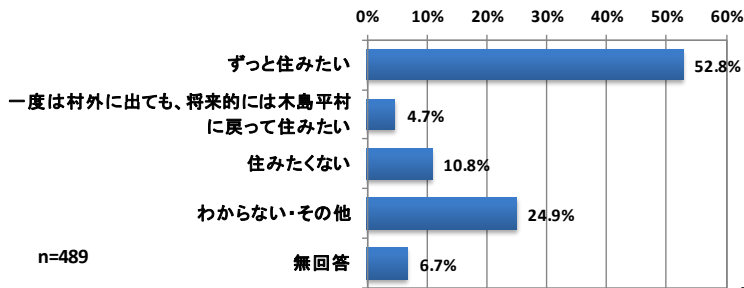
質問に対する選択肢は5つまで回答可、上位7位までグラフ化

<ポイント>

- ・村に対する満足度は5割を下回っており、不満度については2割強の回答割合でした。
- ・満足している点を見ると、「自然が豊富」「水も食べ物も美味しい」「静かで住みやすい」など自然環境が上位であるほか、「住民の温かさ」「知人が多く頼りになる」など人間関係の良さをあげています。
- ・一方、不満な点は、「冬の過酷な生活」がトップですが「公共交通の不便さ」「仕事の限定」「地域の風習、プライバシー問題」「医療・福祉」「買い物の不便さ」など生活環境に不安や不満、不便さを感じているようです。
- ・生活環境への不満に対しては、施策を打つ必要があります。公共交通機関や買い物施設、医療福祉など周辺自治体と広域的に取組む必要があるものがありますが、身近な問題として例えば、コミュニティバスの運行や買い物宅配サービスなど民間企業と連携して取組む必要のあるものもあります。

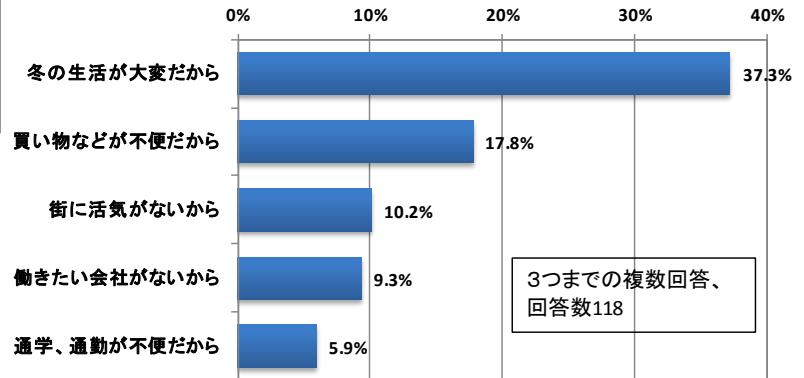
●定住意向

<木島平村に住みたいか>



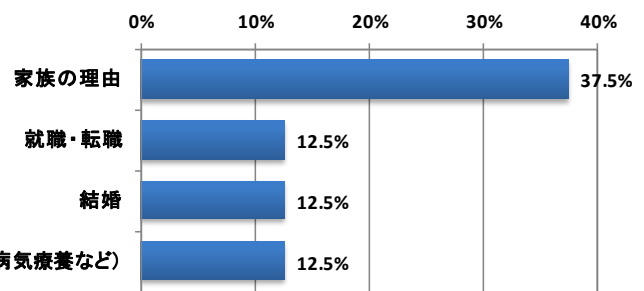
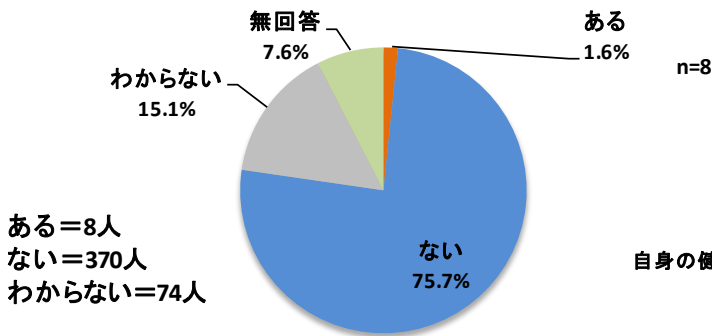
<住みたくない理由>

「住みたくない」と回答した53名の3つまでの複数回答。
回答数=118、上位5位まで



<今後5年以内の転出予定>

<その転出理由>

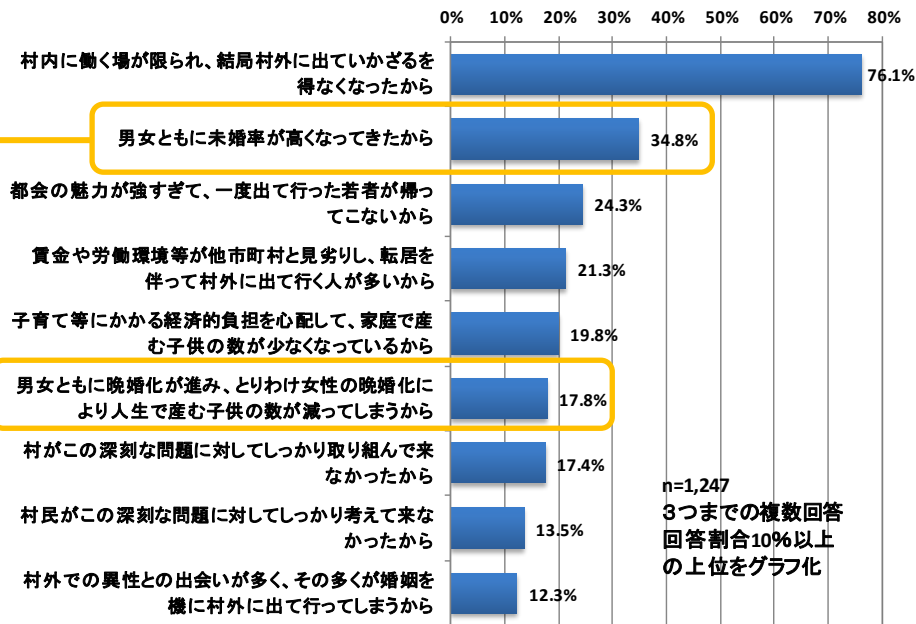


<ポイント>

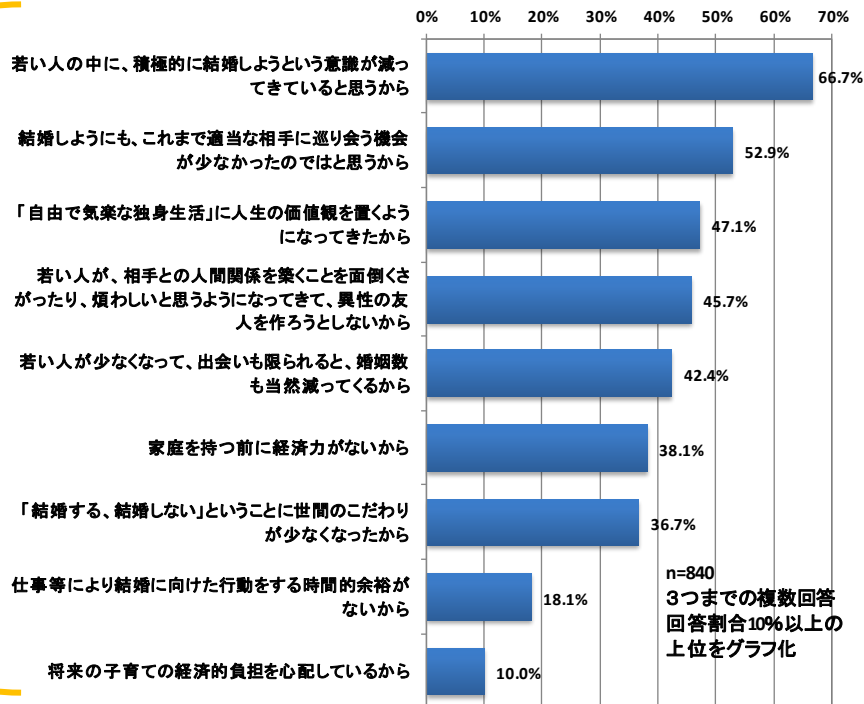
- ・木島平村への定住意向は「将来的には木島平村に戻りたい」を含めて57.5%に達しています。
- ・「住みたくない」と回答した53人にその理由を3つまで尋ねたところ、「冬の生活」がトップですが、買物の不便さや街に活気のないことへの不満を挙げている割合も多いです。
- ・今後5年以内の転出予定は、「ある」と回答した人は8人のみでした。その理由は「家族の理由」などで、村に対する不満項目で村を去るということではありません。
- ・このように村への定住意向は高いものがありますが、「不満」と感じる項目もいくつか散見されます。公共交通機関、買物の不便さに対する不満は、運転免許を持たない若者や高齢者に多いと推測されますので、転出しようにも転出できないのではと思います。今後、高齢者が増加していくと、この不満割合が高まるものと考えられますので、施策としての重要性は高いのではないのでしょうか。

●人口減少問題に対する村民の意識

<人口減少、少子高齢化が止まらないと考える要因は>



<未婚化、晩婚化が進んでいると思う原因>

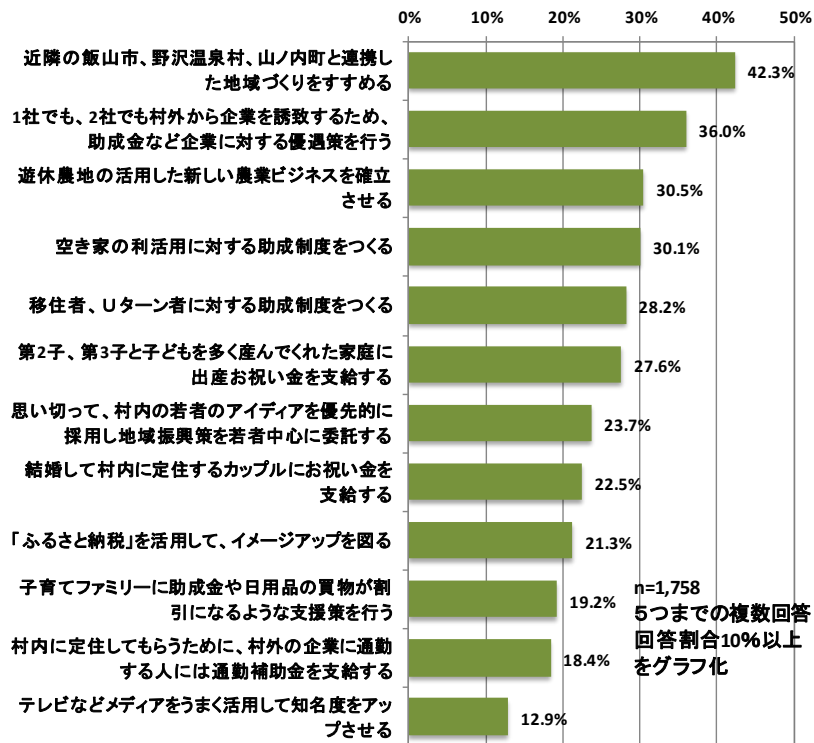


257 人の回答

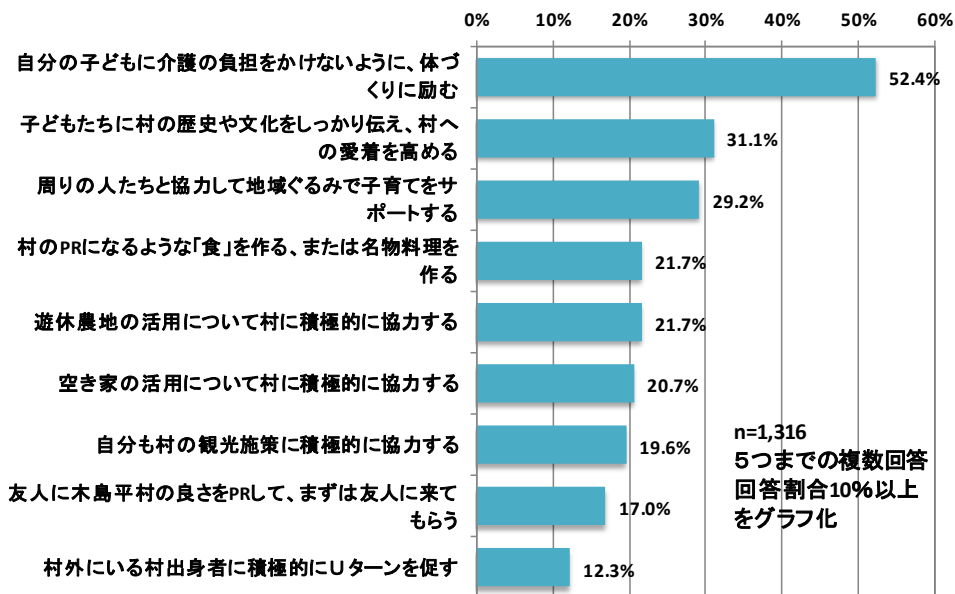
<ポイント>

- ・村民の考える人口減少、少子高齢化の要因のトップは「村内に働く場が限られている」でした。企業の求人環境なのか、業種・職種の不マッチなのかは、ここではわかりませんが、雇用吸収力の問題は施策として重要と考えます。
- ・未婚化、晩婚化が、結果として出生数の減少につながっていると考える人も多いです。
- ・未婚化、晩婚化の原因には「若者の結婚観の変化」「出会う機会の減少」「経済力低下」などを挙げた割合が多く、今後、若者の意識を踏まえて行政でも支援可能なことを考える必要があります。

＜人口減少、少子高齢化問題を解決していくために村が行うべき取り組み＞



＜村民自身が行うこと＞



＜ポイント＞

- ・村民が村に期待することとして、近隣の市町村との「広域連携」、次いで「企業誘致」「農業ビジネスの確立」が挙げられました。木島平の地場産業である「農業」を主体としたビジネス、いわゆる農業の総合6次産業化の必要性が示唆されます。
- ・また、社会動態の増加に期待する声として、移住・Uターン施策、自然動態の増加に期待する声として「出産」や「結婚・定住」のお祝い金を望む声、「ふるさと納税」「テレビなどメディア」を使った知名度アップ策の声もあります。
- ・村民自身も「村に協力する」という気持ちがあり、村民と村が協働することが期待できます。

村内中学生へのアンケート調査

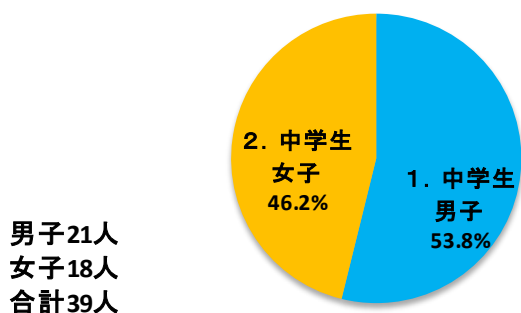
1. 調査概要

調査対象先	木島平村に居住している中学3年生 41人
回答者数	: 39人 (回収率: 95.1%)
調査期間	: 27年6月
調査方法	: 木島平中学校を通じて実施、回収
調査内容	: 卒業の進路、将来の定住意向、就きたい職業や夢、自分の将来像、村の将来像 (自由記述)

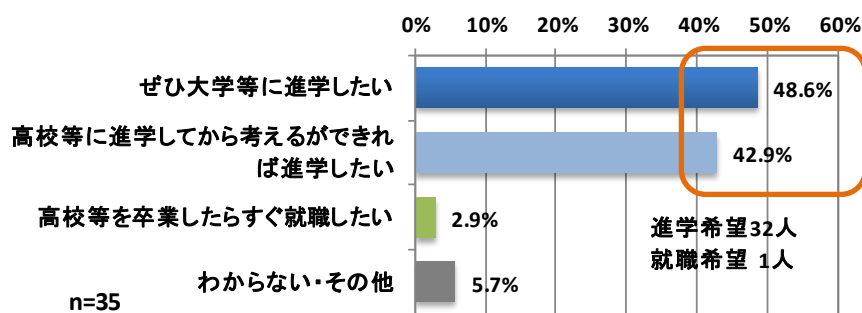
※四捨五入の関係から、構成比の合計が100%にならない箇所があります。

2. 回答者属性、進路希望

(1) 性別

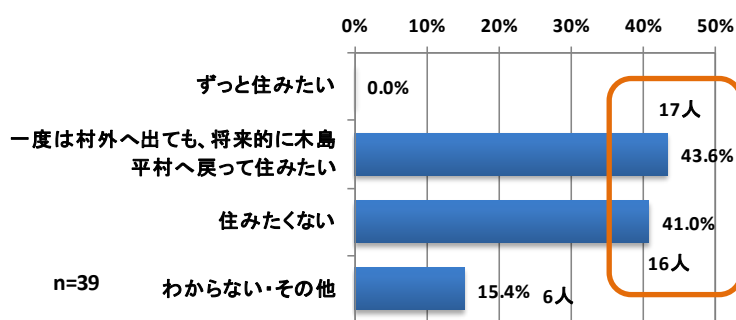


(2) (39人中35人が高校進学希望) 進学後の進路

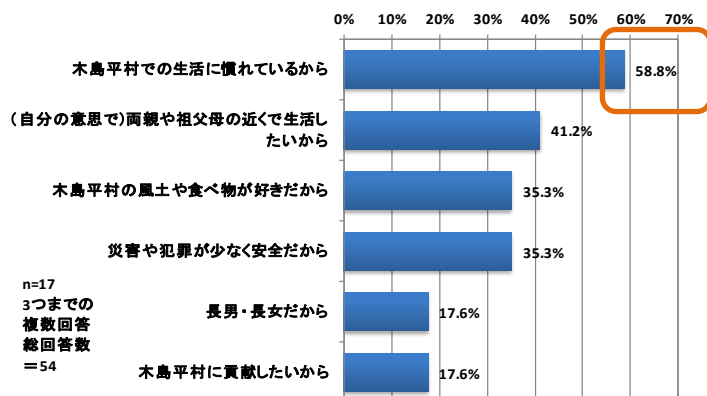


3. 定住意向

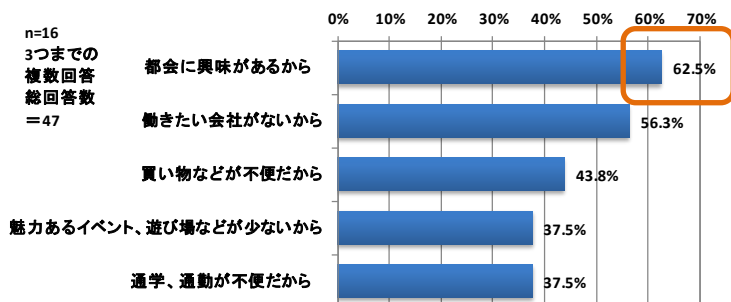
(1) 木島平村に住みたいか



(2) 「将来的に戻って住みたい」(複数回答)



(3) 「住みたくない」理由(複数回答)

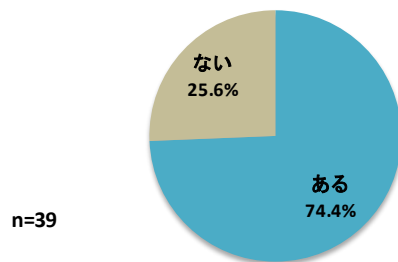


<ポイント>

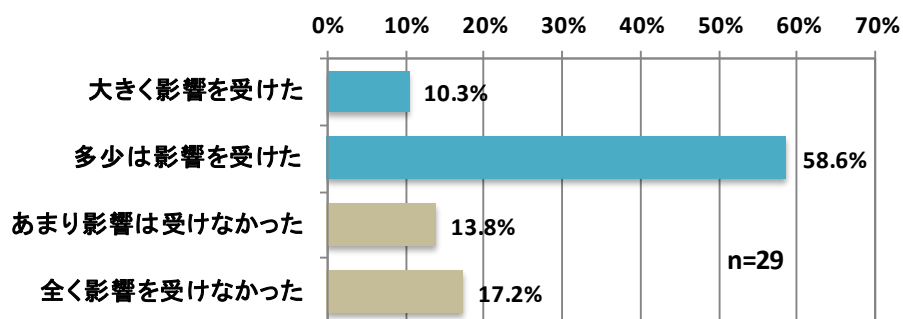
- ・高校進学後に大学等に進学を希望する中学生は **9割** を超えています。
- ・中学生の本村への **定住意向については2分されました**。「将来的に戻って住みたい」理由で「木島平村の生活に慣れているから」が最も多いですが、都会への憧れからか、「住みたくない」と答えた割合も多数いるなど、多感な世代を反映しているようです。

4. 進路、将来の夢、村の将来像

(1) 進路を両親等に相談したことがあるか



(2) 両親等からのアドバイスは影響を受けているか



<ポイント>

- ・進路について両親等に相談したと答えた割合はおよそ **75%**、そのうち「影響を受けた」と答えた割合はおよそ **7割**です。

次頁の自由記述欄について

- ・問 15. 自分の将来像については、現実的なものから大きな夢に至るまで多種多様です。
- ・問 16. 中学生が思い描く村の将来像については、いろんなアイデアが浮かんでいるようです。「村」に対する強い思いが伝わる記述となっています

村内高校生へのアンケート調査

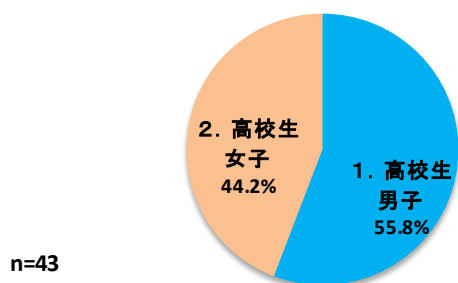
1. 調査概要

調査対象先	木島平村に居住している高校生 130 人
回答者数	43 人 (回収率: 33.1%)
調査期間	平成 27 年 6 月 11 日 (木) (発送日) ~ 平成 27 年 6 月 25 日 (木)
調査方法	郵送配布、郵送回収
調査内容	卒業の進路、将来の定住意向、就きたい職業や夢、自分の将来像、村の将来像 (自由記述)

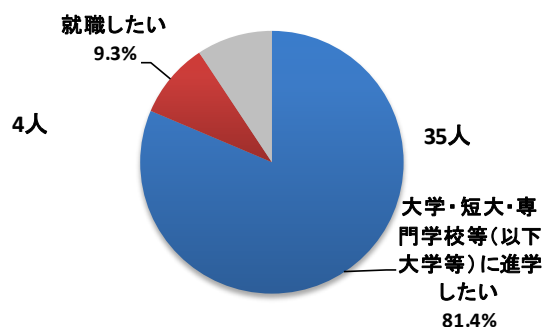
※四捨五入の関係から、構成比の合計が 100%にならない箇所があります。

2. 回答者属性、進路希望

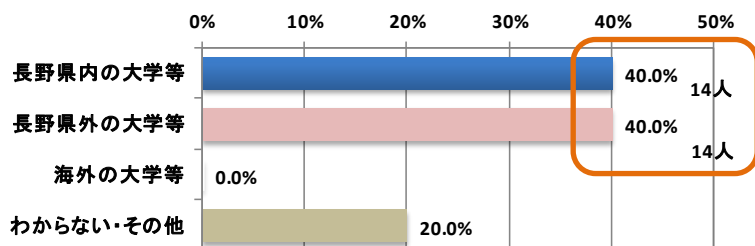
(1) 性別



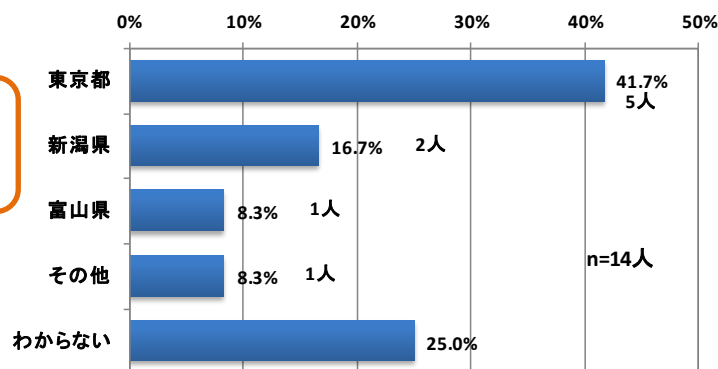
(2) 高校卒業の進路



(3) 進学したい地域



(4) (県外の場合) 進学したい都道府県

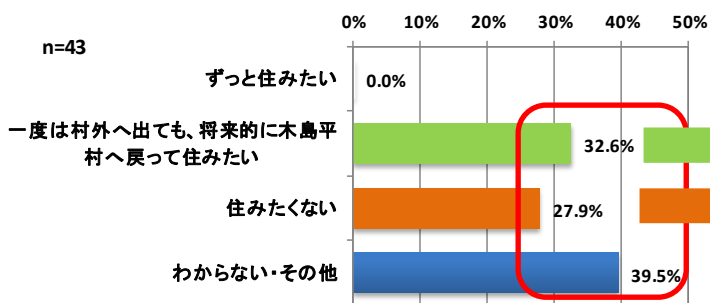


<ポイント>

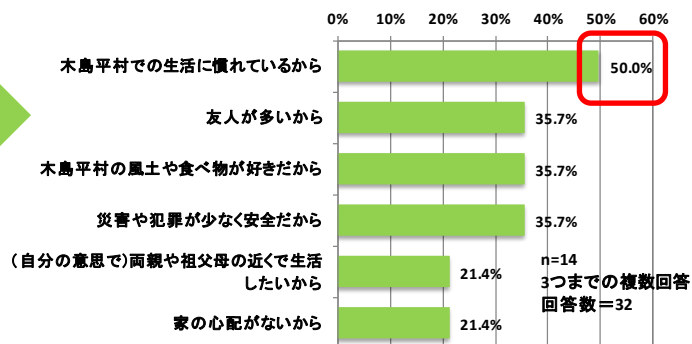
- ・村内の高校生の 8割強が上位教育機関に進学したいと回答し、うち進学したい地域では 県内と県外が同数となりました。県外では東京都が最も多いです。
- ・「わからない・その他」「無回答」の数も多く、まだ 進路を決めかねている学生も多くいることが伺われます。

3. 定住意向

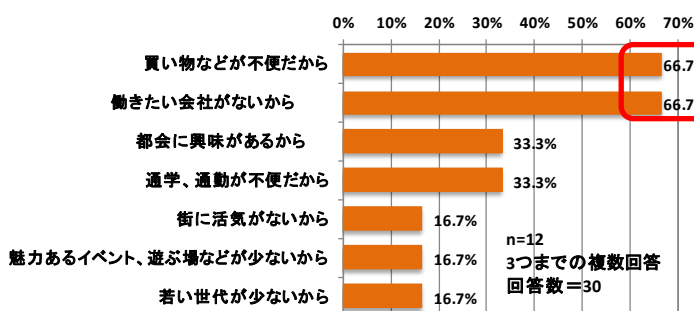
(1) 木島平村に住みたいか



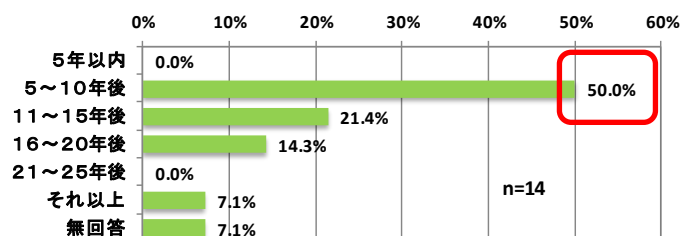
(2) 「将来的に戻って住みたい」(複数回答)



(3) 「住みたくない」理由(複数回答)

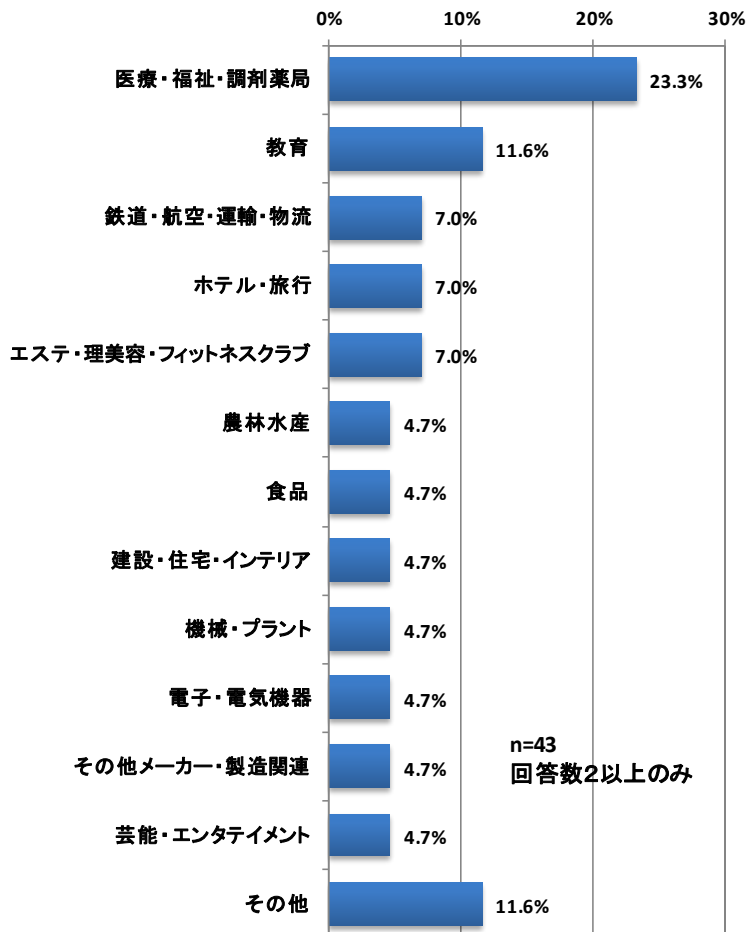


(4) 戻ってくる時期



4. 将来の進路

(1) 働きたい職業

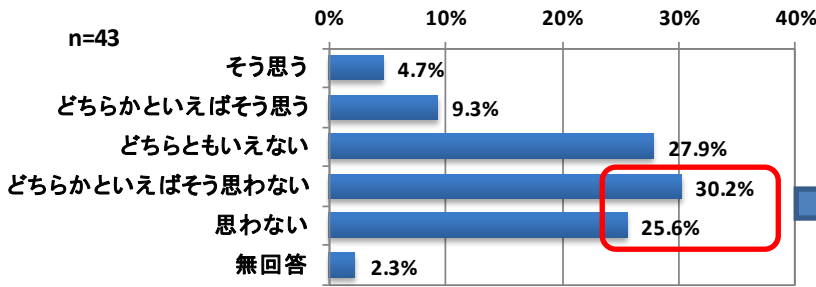


<ポイント>

- ・高校生世代は「一度は村外へ出ても将来的に木島平村に戻って住みたい」が3割強ですが、「わからない・その他」とする回答が最も多い結果となっています。
- ・「将来的に戻りたい」と回答した割合は、「木島平村の生活に慣れている」「友人が多い」「木島平村の風土や食べ物が好き」など、村に対する愛着からの回答が上位です。そして、「5~10年後」を目途に戻りたいとの回答が5割となっています。
- ・「住みたくない」理由は、「買い物の不便さ」「働く場がない」などが上位を占め、村への愛着というより生活上の不便さを理由にしています。
- ・将来の職業として、「医療・福祉・調剤薬局」分野、次いで「教育」など資格を必要とする職種に人気が集まっています。

4. 働きやすさについて

(1) 木島平村は働きやすそうか



(2) 「どちらかかといえはそう思わない」「思わない」理由の回答

問15内容	性別
自分が働きたいと思うような会社があると思えない。	高校生男子
仕事が限られると思うから。	高校生男子
ほとんど農業だから。	高校生男子
新幹線がきても活気がない。村をアピールすることが少ない。観光客がきても楽しむ所が少ない。村で働いても活気がないので住んでも村外へ働き出たい。住む所にはいいかも。	高校生男子
働ける所が少なそうだし、職業の種類も限られてくると思うから。	高校生男子
働く場所が少ない。	高校生男子
会社が少ない。	高校生男子
働き口が少ない。	高校生男子
村の働き口がいまだに分からない。	高校生男子
働く場所が少ないから。	高校生男子
働き手が働ける場所が少ないから。活気がないから。	高校生男子
村内で働くとなると選択肢が限られてしまい、やりたいことをやるとなると難しいと思う。特に自分のやりたい情報のようなものは村内ではできないと思う。	高校生男子
働く所が少ないから。魅力を感じる企業がない。	高校生女子
できる職業が限られてくるから。	高校生女子
働ける場所がない。あえてこの村で働くという理由がない。自分の親がそもそも村で働いていないし、友人や中学までの同級生たちの中でも村内で働いている人があまりいなかったから。この村では働ける仕事に限りがある。	高校生女子
近くに店がないから。	高校生女子
村内に起業が少なく、村外で働いている人が多いと感じるから。専業農家でやっていくのも自分の家が農家をやっていないと難しいと思う。でも将来家族を持った時、保育園や小学校に安心して通わせることができるので、まったく思わないわけではない。	高校生女子
働くといっても農業とかきのこ栽培、つけもの等だろうから若者は好んで働こうと思わないと思うから、そして需要が無さそうだから。	高校生女子
働ける会社が少ない。交通が不便。	高校生女子
将来、就きたい職業の系統の職場が村内にあれば「働きやすそう」と思うかもしれないが、私が魅力を感じる職場は村内にないと思ったから(それは村内にどんな種類の仕事があるのか詳しく知らないことも原因だと思う)。そもそも「働きやすそう」とは、そういう面でどのように感じることを言うのか。	高校生女子
人が少なすぎて、働く場所もなさ過ぎる。	高校生女子

村内在住 19 歳～24 歳の若者向けアンケート調査

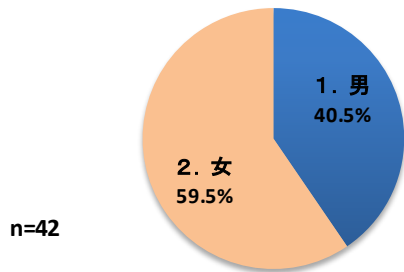
1. 調査概要

調査対象先：木島平村に居住している 19 歳～24 歳の村民から無作為 150 人
 回答者数：42 人（回収率：28.0%）
 調査期間：平成 27 年 6 月 11 日（木）（発送日）～平成 27 年 6 月 25 日（木）
 調査方法：郵送配布、郵送回収
 調査内容：就職している人は会社の満足度、継続勤務希望、学生は卒業後の進路、村に戻る意向の有無、（共通）自分の将来と村への要望（自由記述）

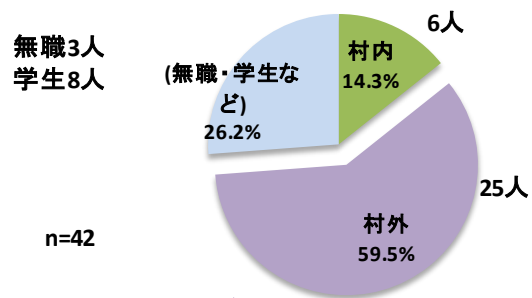
※四捨五入の関係から、構成比の合計が 100%にならない箇所があります。

2. 回答者属性

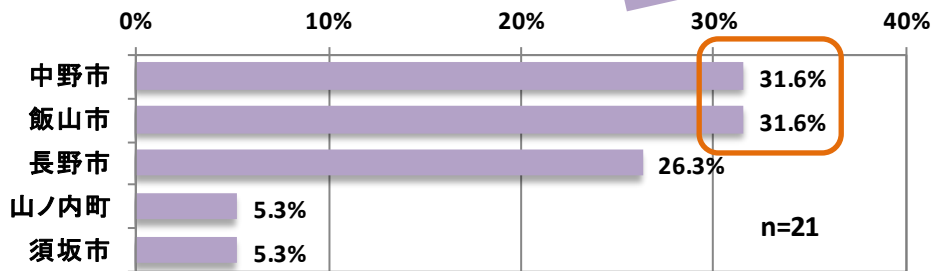
（1）性別



（2）就職先の地域



（3）就職している市町村



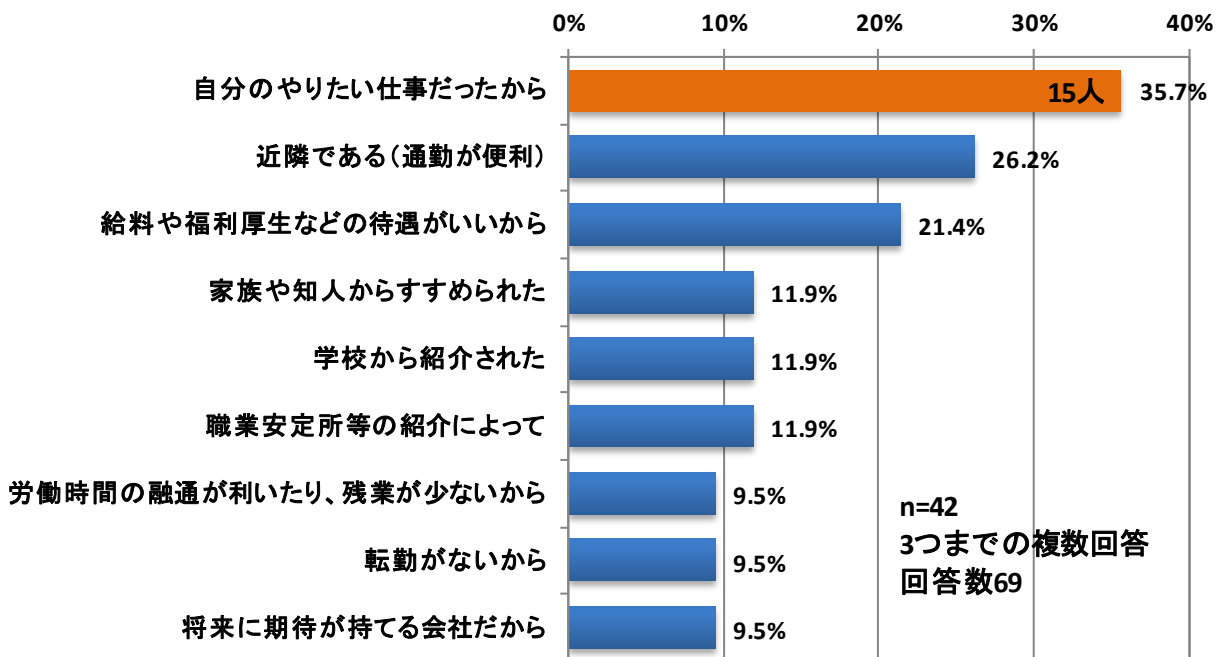
※勤務地不明、回答なしを除く

<ポイント>

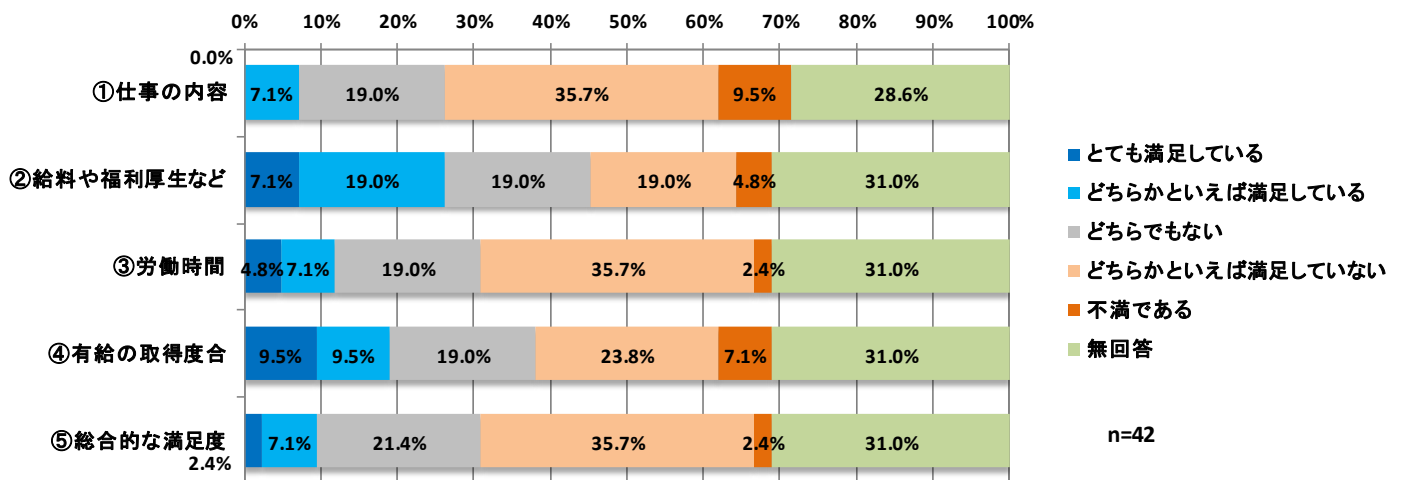
- ・回答者のうち、就職が 31 人（村内 6 人、村外 25 人）、無職・学生が 11 人、村外就職者 25 人のうち中野市と飯山市がそれぞれ 6 人ずつという結果でした。

3. 会社を選んだ理由、満足度

(1) 会社を選んだ理由



(2) 会社の満足度

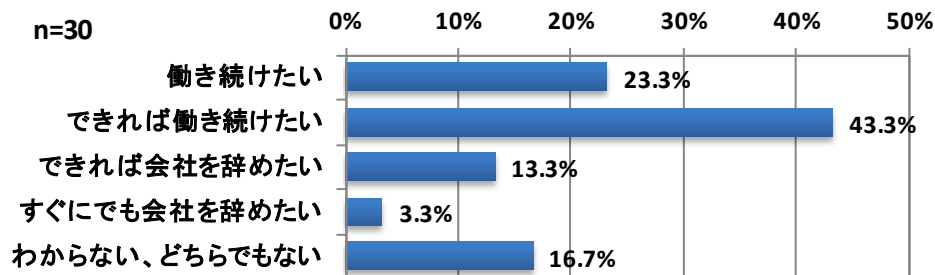


<ポイント>

- ・自分の勤めている会社を選んだ理由で最も多い割合は「自分のやりたい仕事だったから」、次いで「近隣(通勤が便利)」となっています。
- ・会社の満足度を項目別に5段階で評価すると、①仕事の内容～④有給の取得度合まで満足度はあまり高くなく、⑤総合的な満足度についても、「満足している」と答えた割合は10%未満でした。
- ・不満度が多いのは、①仕事の内容であり、「やりたい仕事で会社を選んだ」わりに、「仕事への不満が高い」という結果となりました。

不満の内容(具体的記述)

- ・人材が少なく重労働、定時に帰れない
- ・賞与が全社員同額
- ・自由に有給が使えない
- ・現場の環境に応じて別途手当をつけるか環境改善をしてくれないと不満(給料面)
- ・有給を取得しやすいようにしてほしい
- ・仕事内容と給料が合わない
- ・作業員への面倒見が悪い
- ・時間外手当がない、サービス残業が多い
- ・上司に対し信頼できない



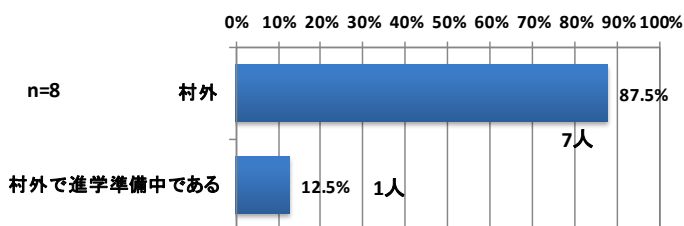
<ポイント>

- ・不満の内容で具体的に記述されたのは「給与」「有給」「時間外手当」が主でした。
- ・ただ、会社に対する満足度があまり高くないにもかかわらず、「働き続けたい」と回答する割合は67%近くに上っている。若者が仕事と待遇について、まだ評価を図りかねている状況も伺えます

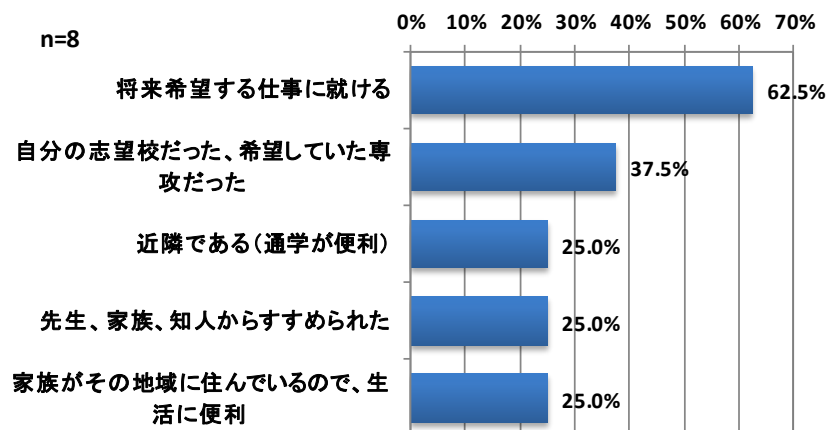
(※無職の方はサンプル数が3につき省略します)

4. 学生および進学準備中の人について

(1) 属性

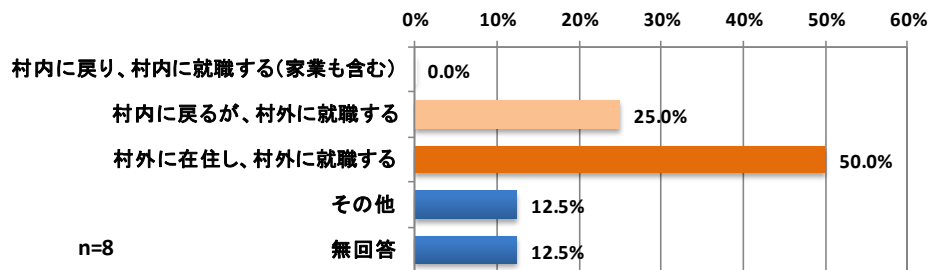


(2) その学校を選んだ理由

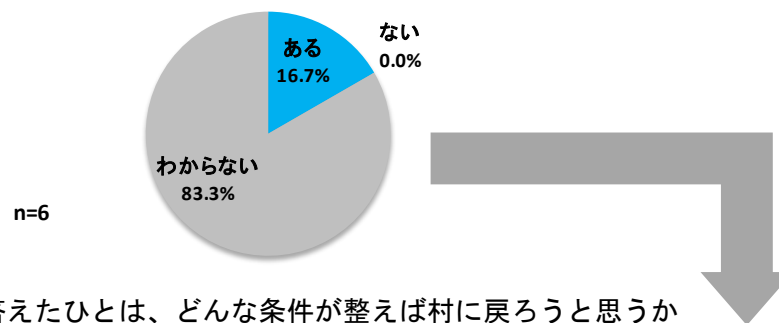


5. 将来の進路

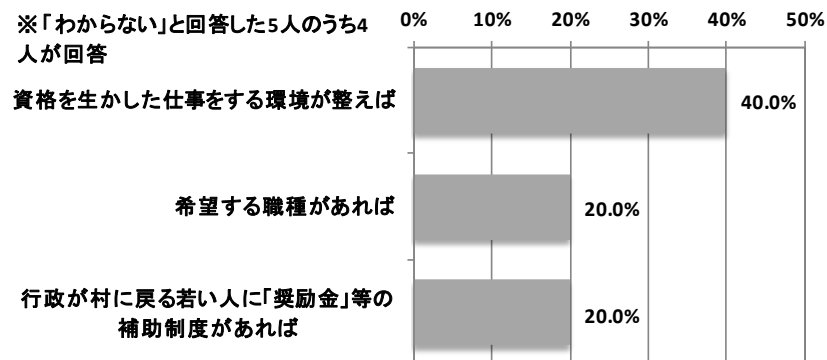
(1) 卒業後の進路



(2) 「村外に就職する」と答えた6人に、将来的に村に戻る意向があるかどうか



(2) 「わからない」と答えたひとは、どんな条件が整えば村に戻ろうと思うか



<ポイント>

- ・将来の進路は8人中6人が「村外に就職する」と答えています。そのうち「将来的に村に戻る」意向のある人は1人、残りの5人は「わからない」と答えています。
- ・「わからない」と答えた人は、「資格を生かした仕事をする環境が整えば」と回答した人が2人、以下1人ずつの回答です（サンプルが少ないため詳しい分析は省略します）

結婚・妊娠・出産・子育てに関する村民意識調査

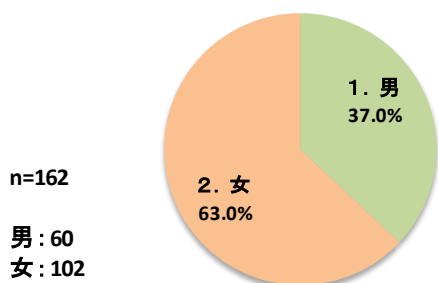
1. 調査概要

調査対象先	：20～39歳までの村民から無作為に抽出し500人
回答者数	：162人（回収率：32.4%）
調査期間	：平成27年6月11日（木）（発送日）～平成27年6月25日（木）
調査方法	：郵送配布・郵送回収
調査内容	：独身男女の結婚観、希望出生数、子育てに対する行政への期待、育休制度等の活用度合、少子化・人口減少問題に対する自由意見など

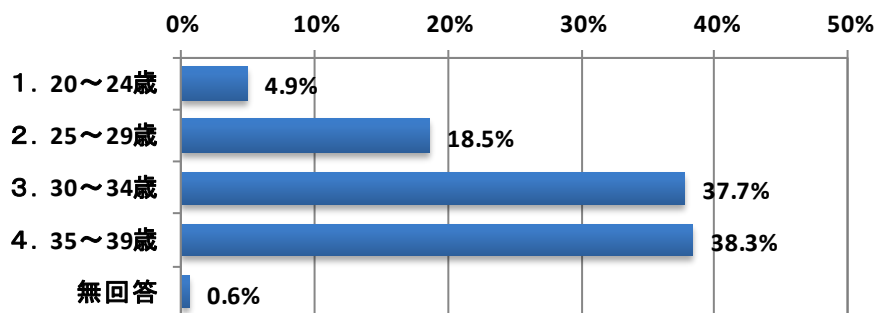
※四捨五入の関係から、構成比の合計が100%にならない箇所があります。

2. 回答者属性

(1) 性別

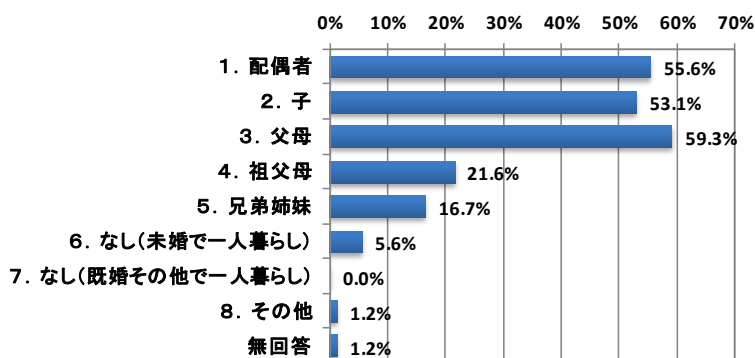


(2) 年齢

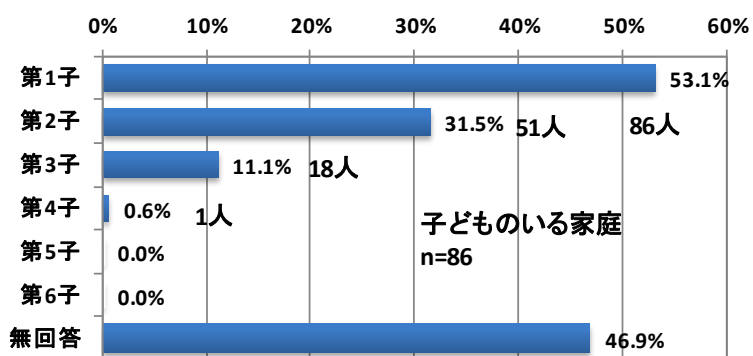


3. 家族構成等

(1) 家族構成



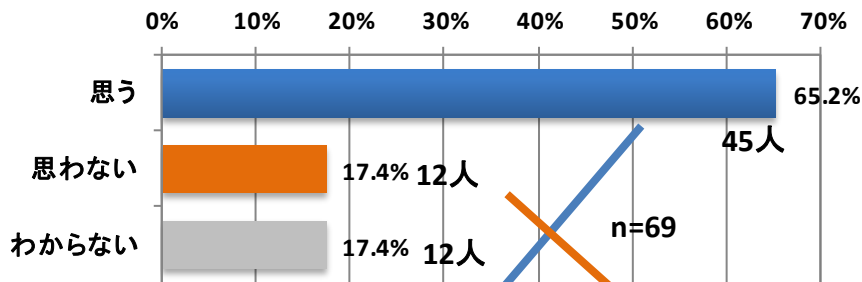
(2) 子どもがいる場合の人数



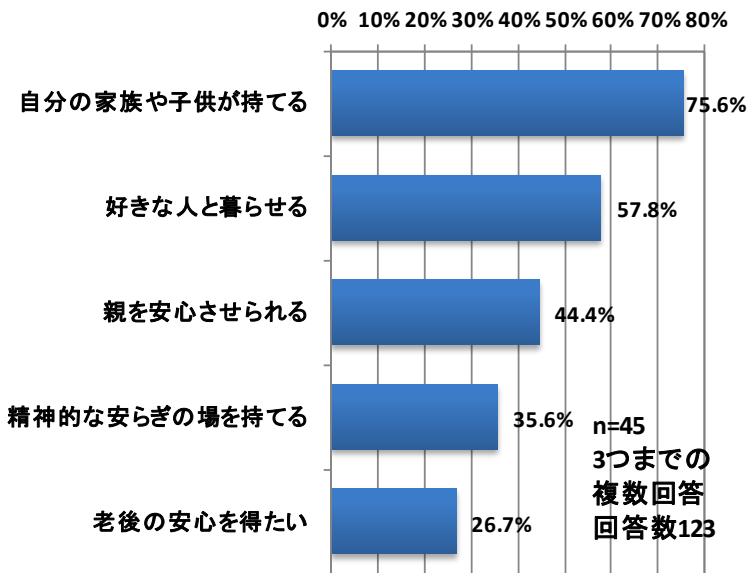
アンケート結果を踏まえた重点事業の方向性（結婚・出産・子育て）

●独身男女の結婚観

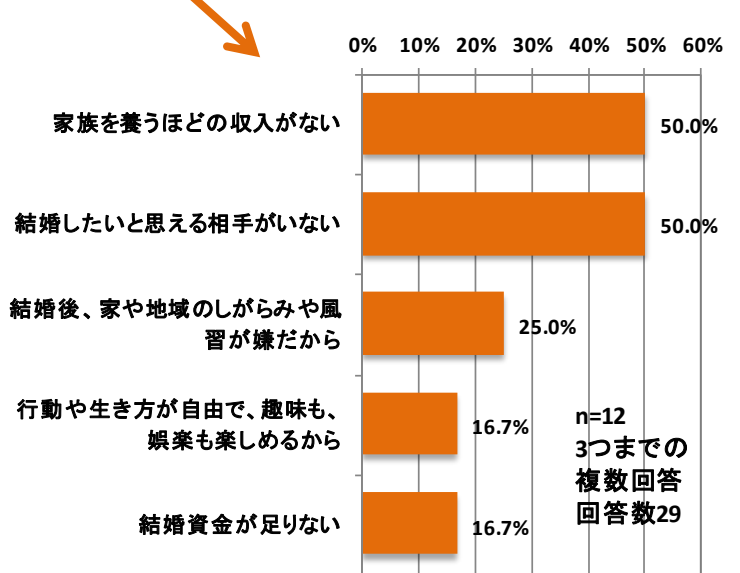
＜将来結婚したいと思うか＞



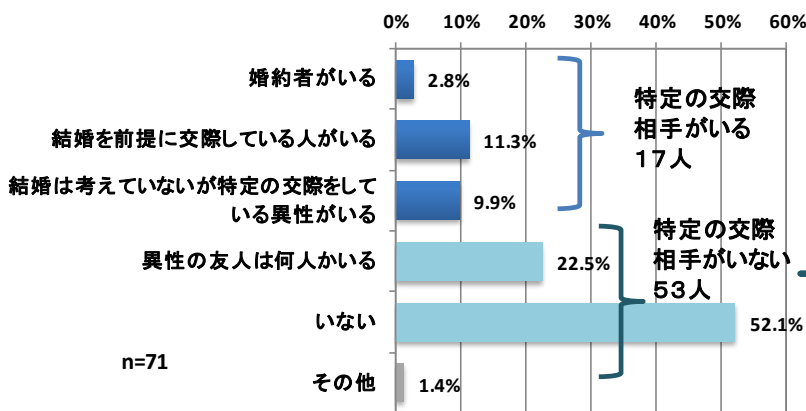
＜思う理由（上位5位）＞



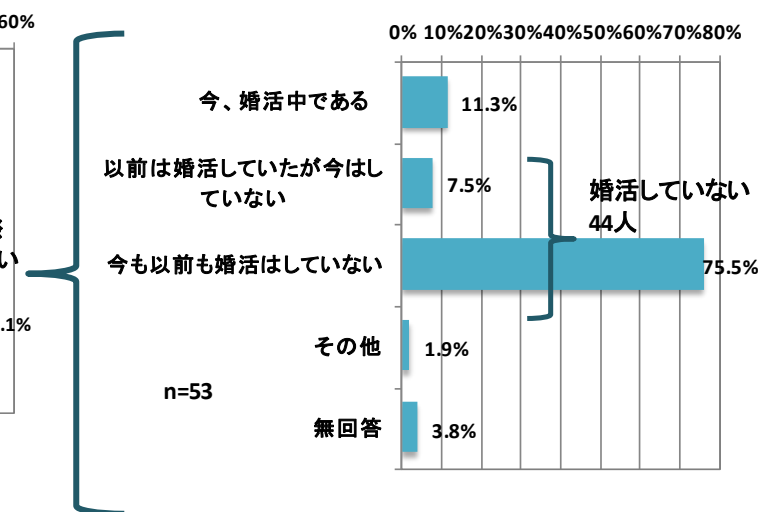
＜思わない理由（上位5位）＞



＜お付き合いしている異性の友人がいるか＞



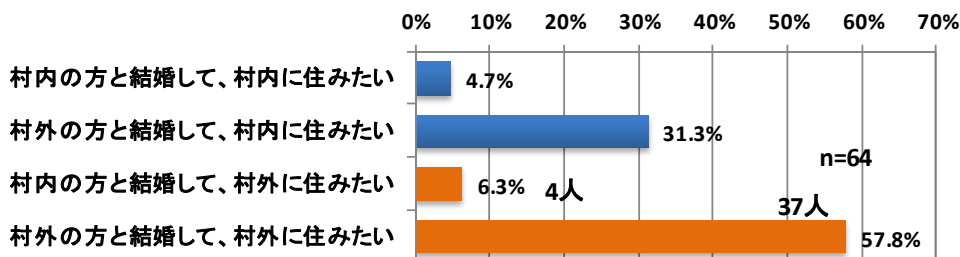
＜婚活状況＞



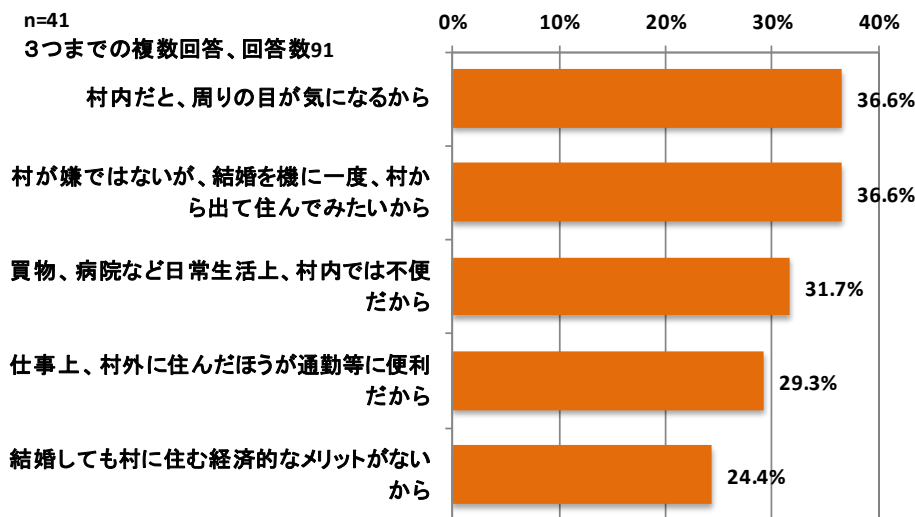
<ポイント>

- ・独身男女の **65.2%**が「結婚したいと思う」と回答しており、その理由として「自分の家族が持てる」の回答割合が最も多いです。3位の「親を安心させられる」の回答割合を含めると、**木島平村の独身男女は家族志向が強いことが伺えます。**
- ・一方、「思わない」と回答した人は「収入」「相手」の問題を理由に挙げています。
- ・お付き合いしている異性の友人の有無を尋ねる問いには、「特定の交際相手がいない」割合がおおよそ**75%**に達し、そのうち「婚活をしていない」割合は**8割**を超えています。
- ・「結婚したい」が「相手」がいなくて、「婚活」もしていないというのが全体像です。
- ・「婚活をしている」と答えた少数意見では「合コンに参加」「親や友人等に紹介を依頼」「サークル活動や習い事に参加」が出されています。村として、**独身男女の出会いの場を提供できるか、知恵を絞る必要がありそうです。**

<結婚する場合の相手と居住場所>



<村外に住みたい理由>



(その他の意見:「お互いの両親と距離を置きたい」「知らない人の多いところで住んだほうが新婚生活が新鮮」「新婚用の住居が村に見当たらない」「村内に住むことに相手に同意してもらえそうもない」など)

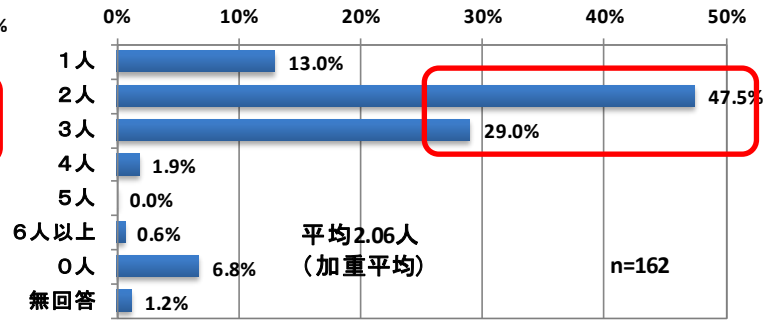
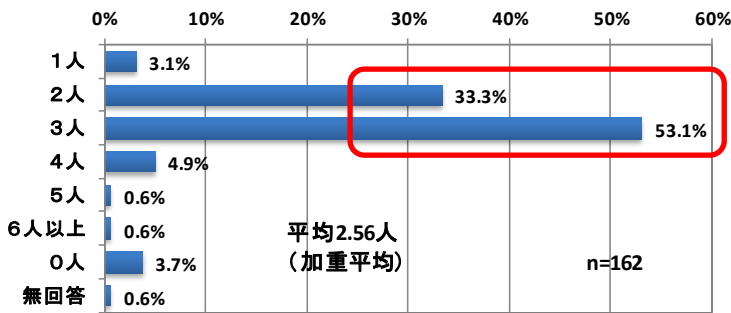
<ポイント>

- ・この設問では、「村外の方と結婚したい」が高い割合です。また「村外に住みたい」と回答した人も**6割を超えました**。「村」への愛着が強い一方で、様々な理由で「村外に住みたい」としていることから、施策の方向性をつかむのが難しいですが、**村内での出会いの場の提供、新婚家庭への経済的支援制度(村に住む経済的メリット)**などがヒントになりそうです。

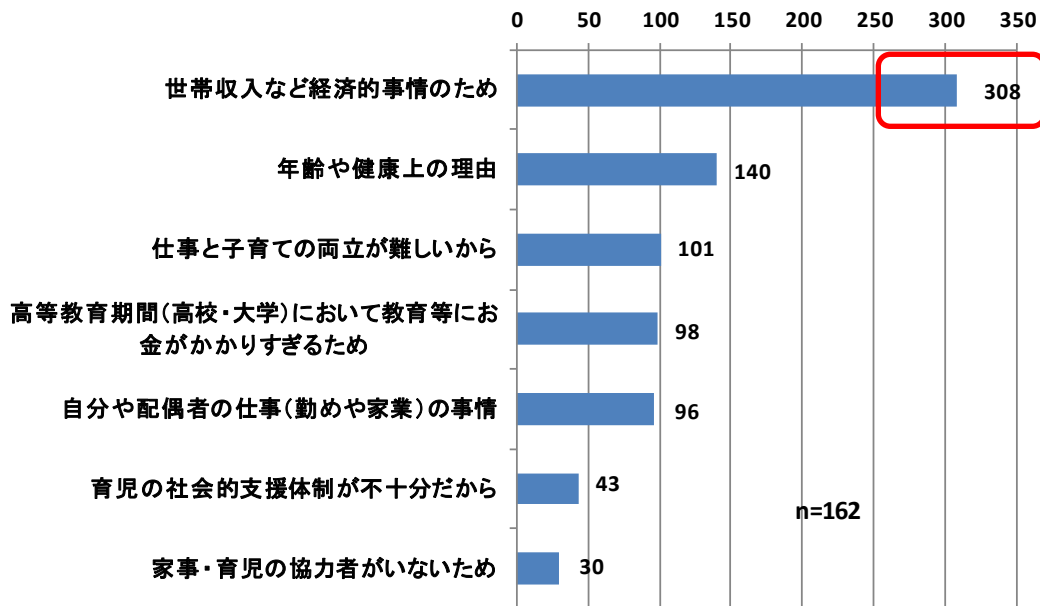
● 出産・子育てに関するご意見（男性も回答）

<理想的な子どもの数>

<実際に産み育てられるとしたら.....>

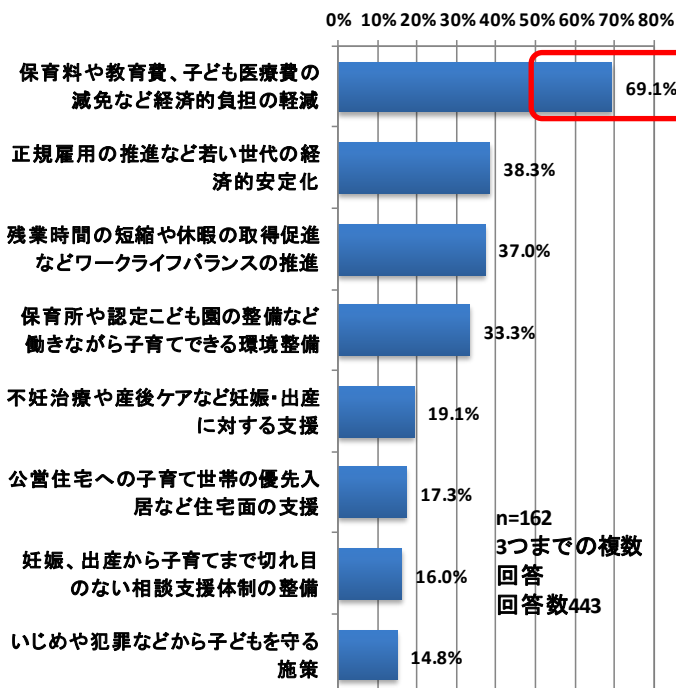


※理想的な子どもの数 2.56人と実際に産み育てられる数のギャップとして、回答者が答えた「理由」



(注：回答者は可能性の高い順に選択。第1順位を3点、第2順位を2点、第3順位を1点とし、累積点数を算出し、上位点数をグラフ化)

<行政に充実してほしい支援策>



<ポイント>

・アンケートからの単純な集計ですが、理想的な子どもの数と実際に産み育てられる数に0.5人のギャップがあります。

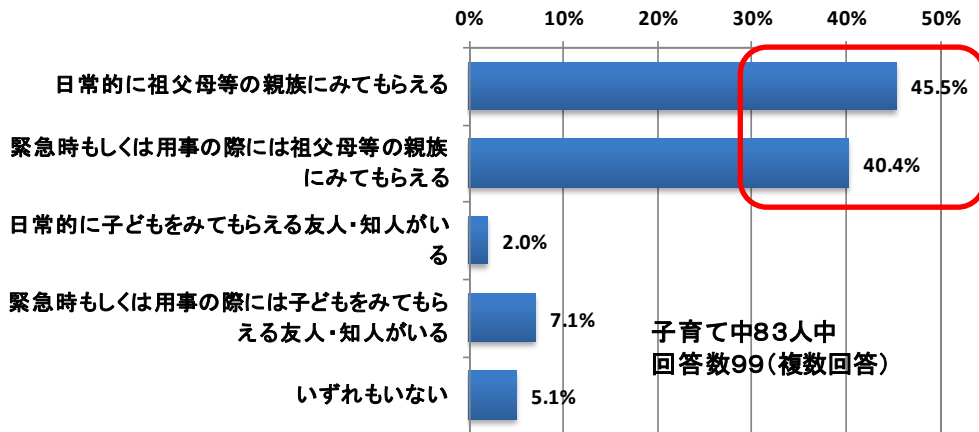
・そのギャップについては、出産・子育てにかかる経済的な負担を多くの人が理由にあげています。

・「仕事と子育ての両立の難しさ」や「自分や配偶者の仕事の事情」をあげる割合も多くみられました。

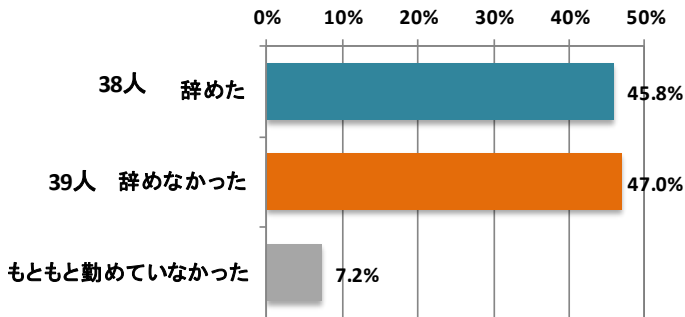
・行政に対しての要望は、「経済的負担の軽減」「雇用面についての配慮」などがありますが、村だけでなく、商工団体や企業等にも理解と協力を求めています。

●子育て環境、復職について（お子さんがいらっしゃる方のみ）

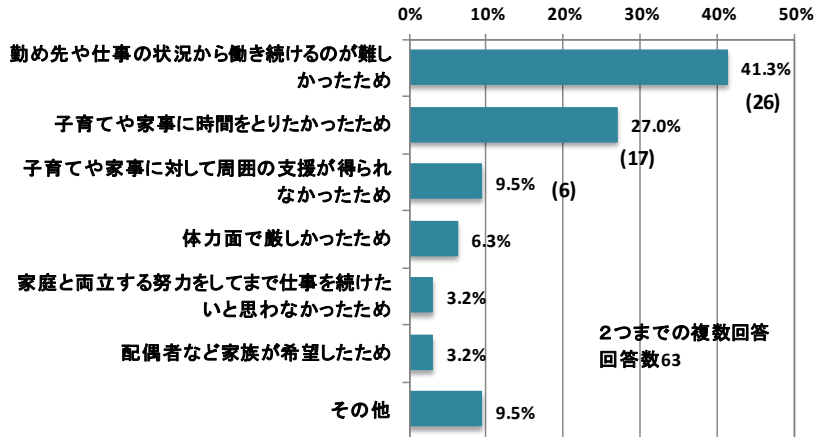
<日頃お子さんをみてもらえる人は>



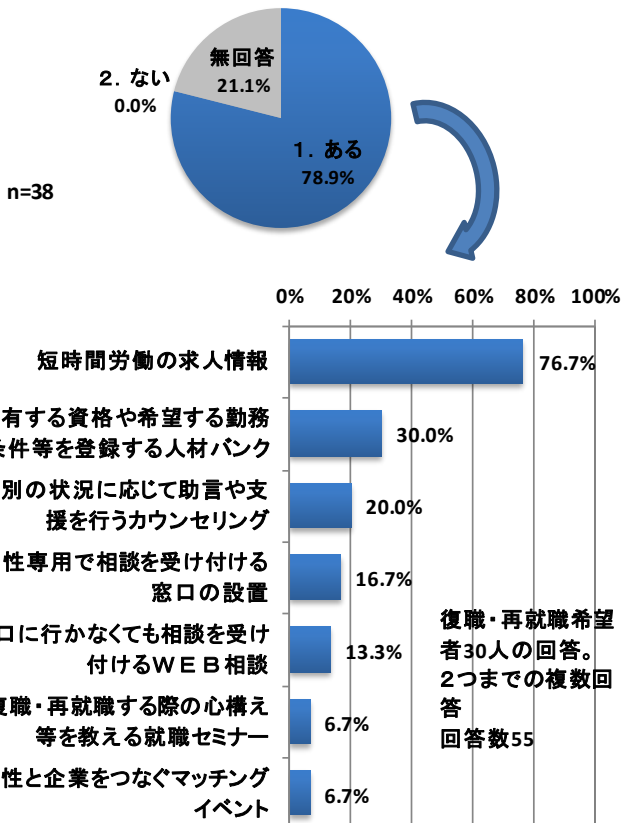
<出産をきっかけに仕事をどうしたか>



<辞めた理由>



<復職・再就職希望、行政への要望>



<ポイント>

- ・「日頃お子さんをみてもらえる人は」の問いについては、およそ 86%の人が祖父母等にみてもらえると回答しており、核家族化が進行している社会においては良好な環境といえます。
- ・出産をきっかけに「仕事を辞めた」と回答した割合が半数近くおり、「仕事と子育ての両立の難しさ」を回答した割合は4割に上っています
- ・復職・再就職希望は「辞めた」と回答した38人中 30人が「ある」と答えています（無回答8人）
- ・望んでいる支援策は「短時間労働の求人情報」の回答割合が高いことから、この問題についても、行政、商工団体、企業が一体となって支援していく必要があります。

木島平村に転入された方へのアンケート調査

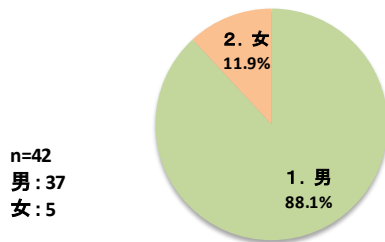
1. 調査概要

調査対象先	平成 22 年～平成 26 年の 5 年間に木島平村に転入した世帯の世帯主 162 世帯
回答者数	42 人（回収率：25.9%）
調査期間	平成 27 年 6 月 11 日（木）（発送日）～平成 27 年 6 月 25 日（木）
調査方法	郵送配布・郵送回収
調査内容	転入理由、木島平村の住みやすさ、子育て環境、定住意向、自由意見など

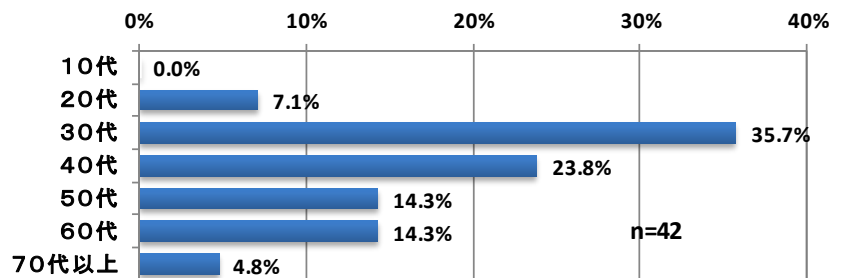
※四捨五入の関係から、構成比の合計が 100%にならない箇所があります。

2. 回答者属性

(1) 性別

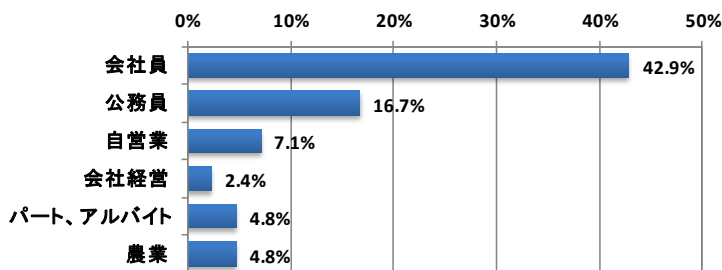


(2) 年代

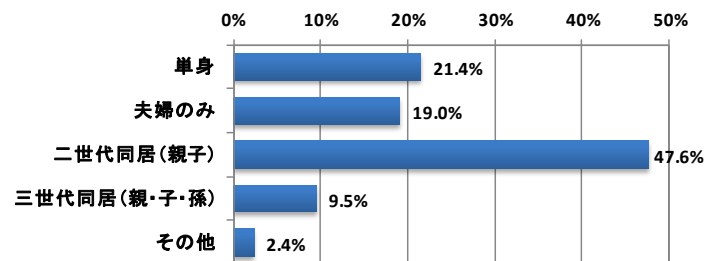


3. 職業、家族構成、転入元等

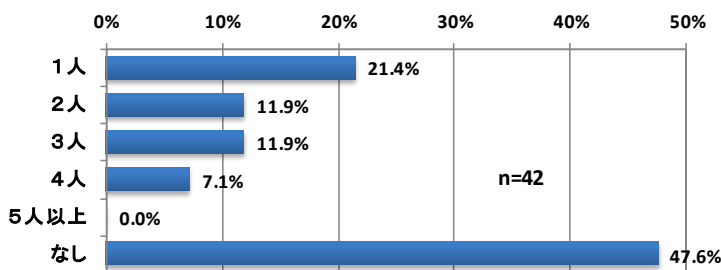
(1) 職業



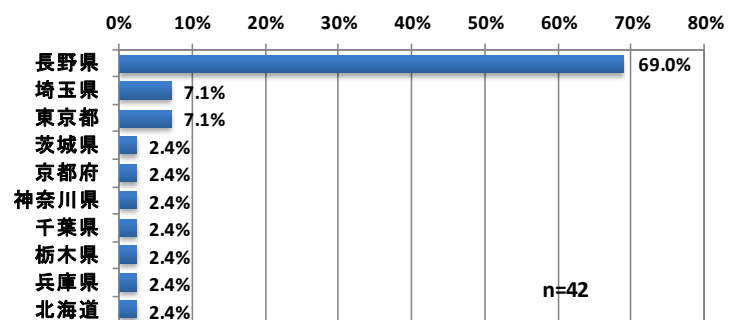
(2) 家族構成



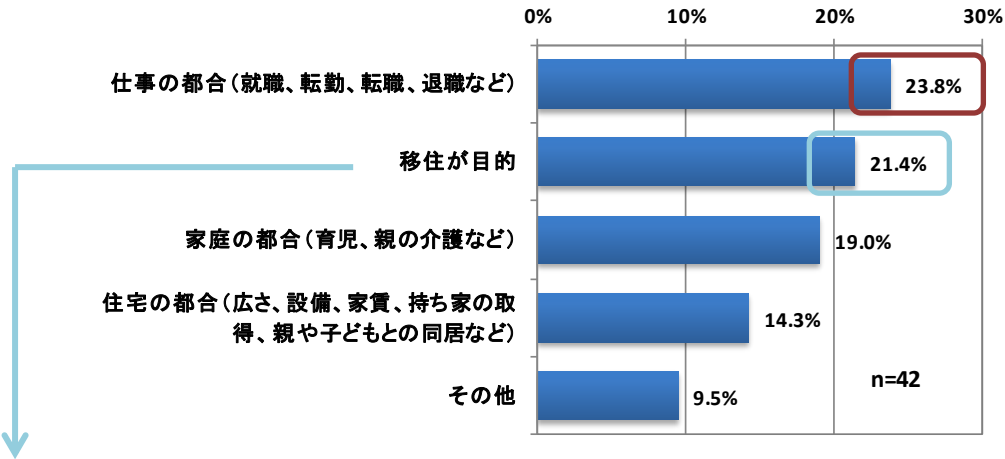
(3) 同居の子ども数



(4) 転入前の居住地



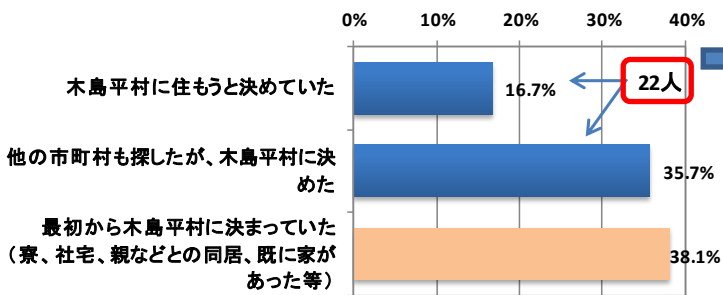
4. 転入理由、きっかけ



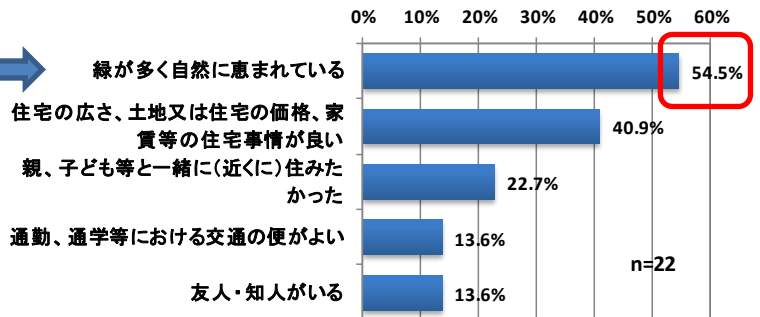
(「移住」と思われる回答者の属性など)

性別	年代	職業	家族構成	前居住地	選んだ理由
女	20代	会社員	単身	埼玉・深谷市	緑と自然が豊か
女	30代	会社員	夫婦・子1人	野沢温泉村	緑と自然が豊か
男	70代	無職	夫婦	須坂市	緑と自然が豊か
男	30代	会社員	夫婦・子4人	飯山市	緑と自然が豊か
男	40代	会社員	夫婦	中野市	緑と自然が豊か
男	60代	無回答	単身	埼玉・越谷市	無回答

<転入にあたって木島平村以外も探したか>



<木島平村を選んだ理由>



<ポイント>

- ・木島平村への転入者は **30代~40代** が6割を占め、職業は**会社員**、転入後の家族構成では**2世代同居**というイメージです。
- ・転入理由、きっかけをみると、仕事の都合、家庭の都合、住宅の都合などが多く、**典型的なUターン型転入**と思われます。
- ・ただ、「移住が目的」とする転入者も9人います。そのうちあえて木島平村を選んだと推察される6人をみると「緑と自然の豊かさ」を理由にあげています。この理由だけで移住が推進できることではありませんが、**移住施策の一環として「自然」と「生活」の魅力をどうバランスよく訴求していくかが重要です。**

木島平村から転出された方へのアンケート調査

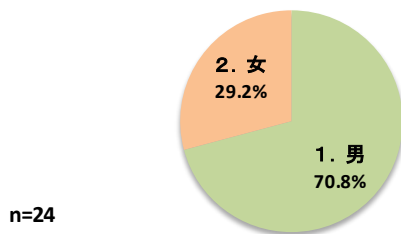
1. 調査概要

調査対象先：平成24年～平成26年の3年間に木島平村から転出した世帯の世帯主67世帯
 回答者数：24人（回収率：35.8%）
 調査期間：平成27年6月11日（木）（発送日）～平成27年6月25日（木）
 調査方法：郵送配布・郵送回収
 調査内容：転出先、転出理由、木島平村での印象、自由意見など

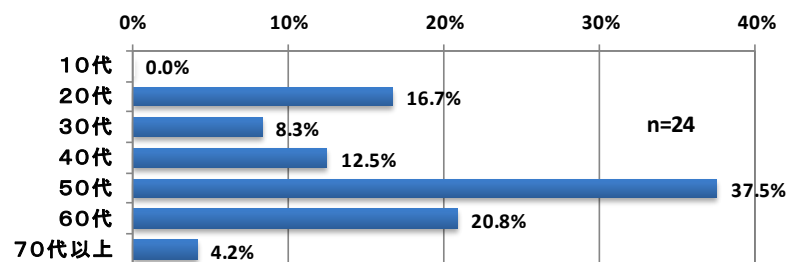
※四捨五入の関係から、構成比の合計が100%にならない箇所があります。

2. 回答者属性

(1) 性別

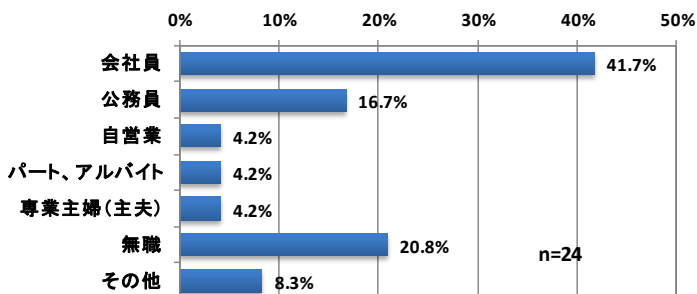


(2) 年代

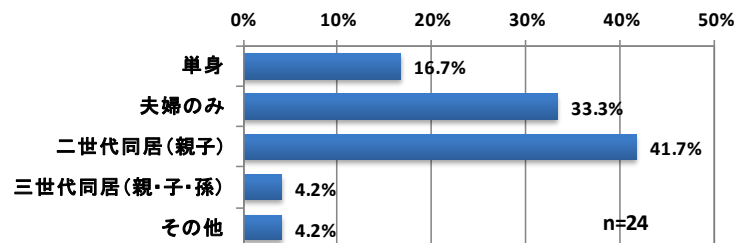


3. 職業、家族構成、転出先、居住年数等

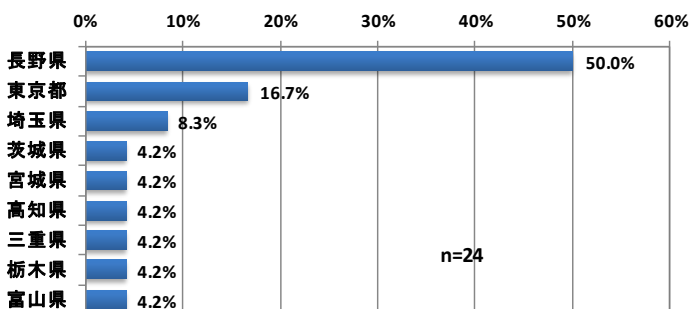
(1) 職業



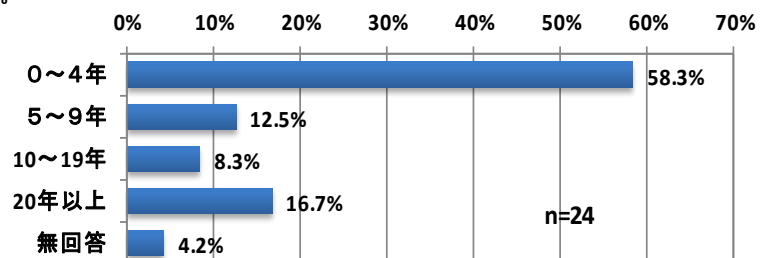
(2) 家族構成



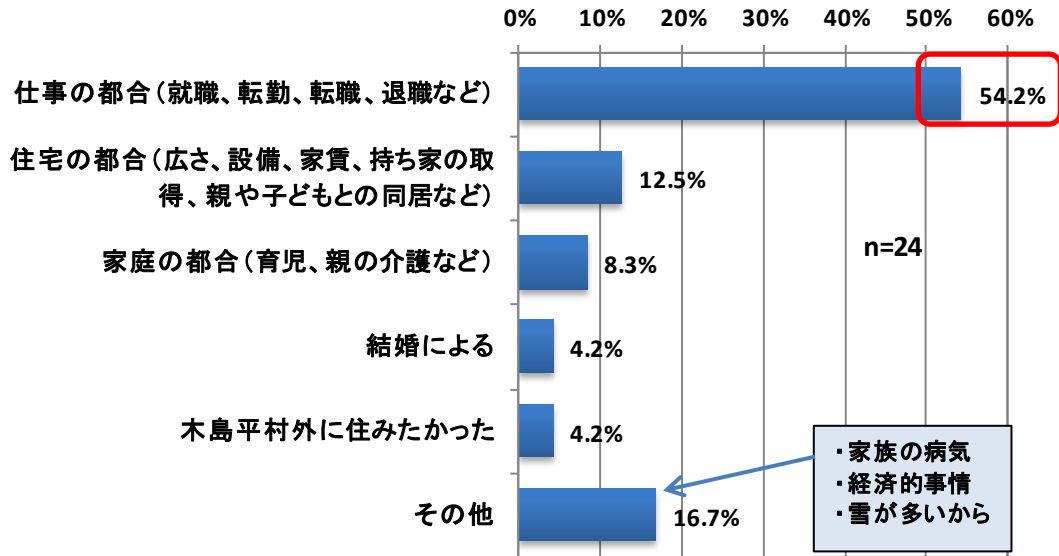
(3) 転出後の居住地



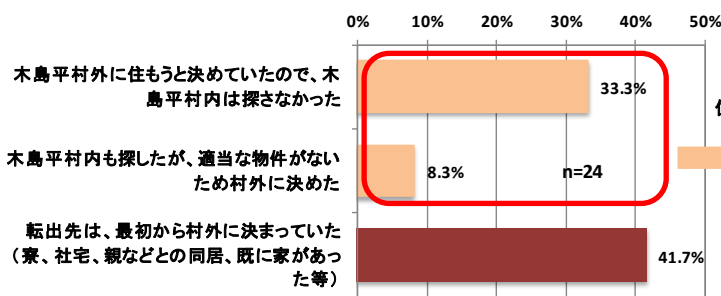
(4) 木島平村での居住年数



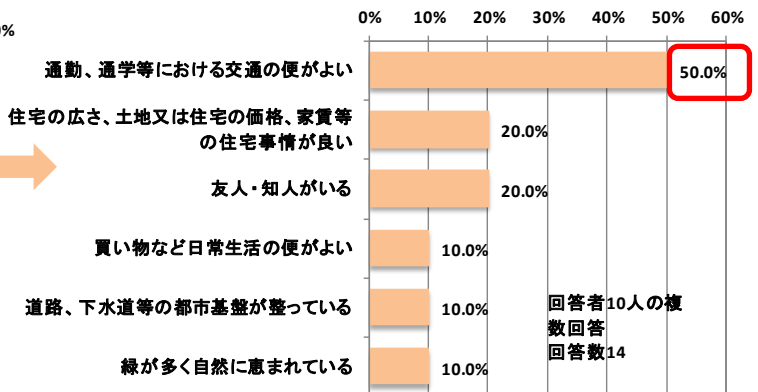
4. 転出理由、きっかけ



<転出にあたって木島平村内も探したか>



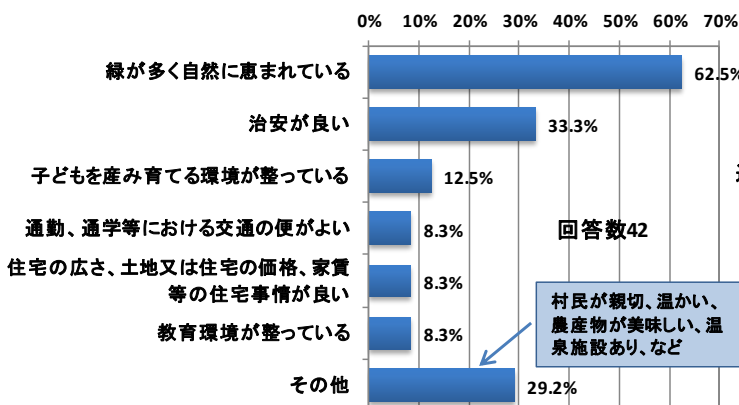
<転出先を選んだ理由>



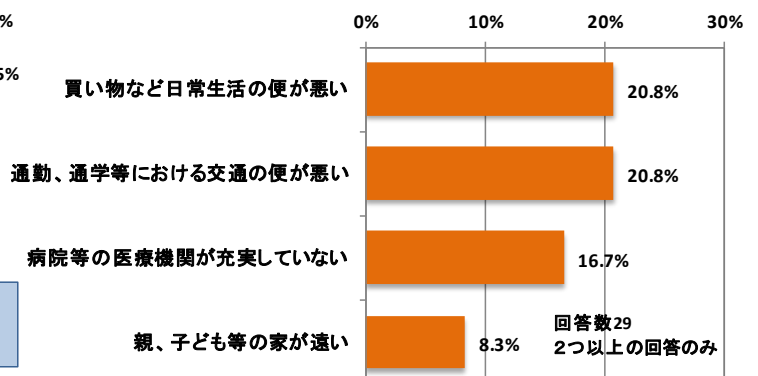
5. 木島平村の印象 (複数回答)

(「住みやすかった」=16人、「住みにくかった」=4人、「よくわからない」=4人 (合計24人))

<住みやすかった点>



<住みにくかった点>



<ポイント>

- ・木島平村から転出した人は、50代～60代、会社員、仕事の都合、居住年数4年以内の人の割合が多いようです。
- ・木島平村の印象は「住みやすかった」と答えた割合が 2／3 であり、住みやすかった点についても「緑が多く自然に恵まれている」とする割合が6割を超えました。
- ・「住みにくかった」点は、買物や交通の不便性、医療機関の不足等を上げています。

村内観光関連事業者に対する意識調査

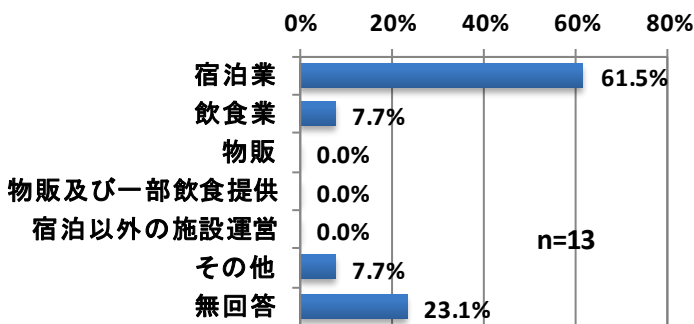
1. 調査概要

調査対象先	村内観光事業者 47 事業者のうち、37 事業者に送付
回答者数	: 13 人 (回収率: 35.1%)
調査期間	: 平成 27 年 6 月 11 日 (木) (発送日) ~ 平成 27 年 6 月 25 日 (木)
調査方法	: 郵送配布・郵送回収
調査内容	: 雇用、業況、5 年前と比べた観光産業の変化、今後の観光産業、北陸新幹線延伸効果、村や商工団体に求める施策・自由意見など

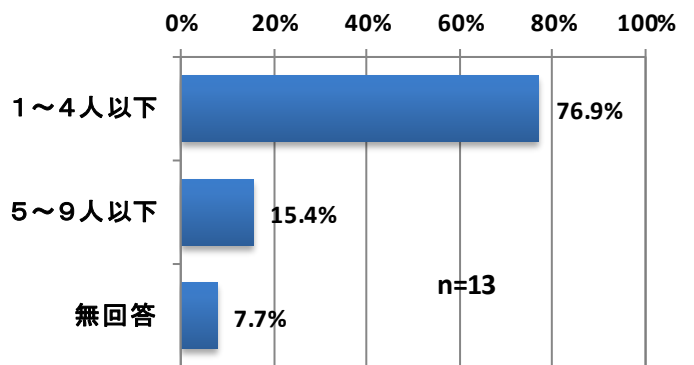
※回答サンプル数が少ないものがありますので、一部省略いたします

2. 回答者属性

(1) 業種

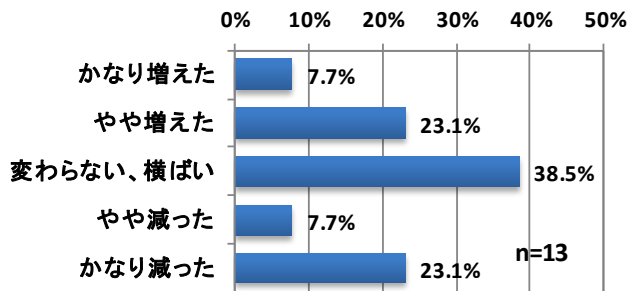


(2) 従業員数

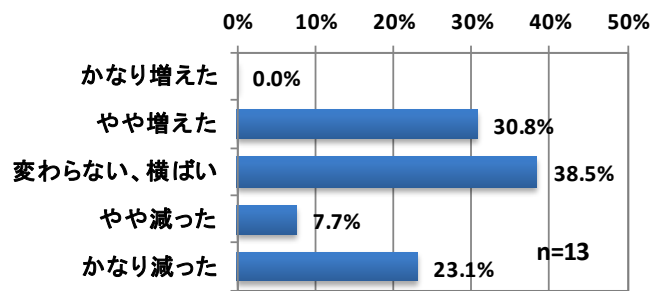


3. 5年前と比べた業況の変化

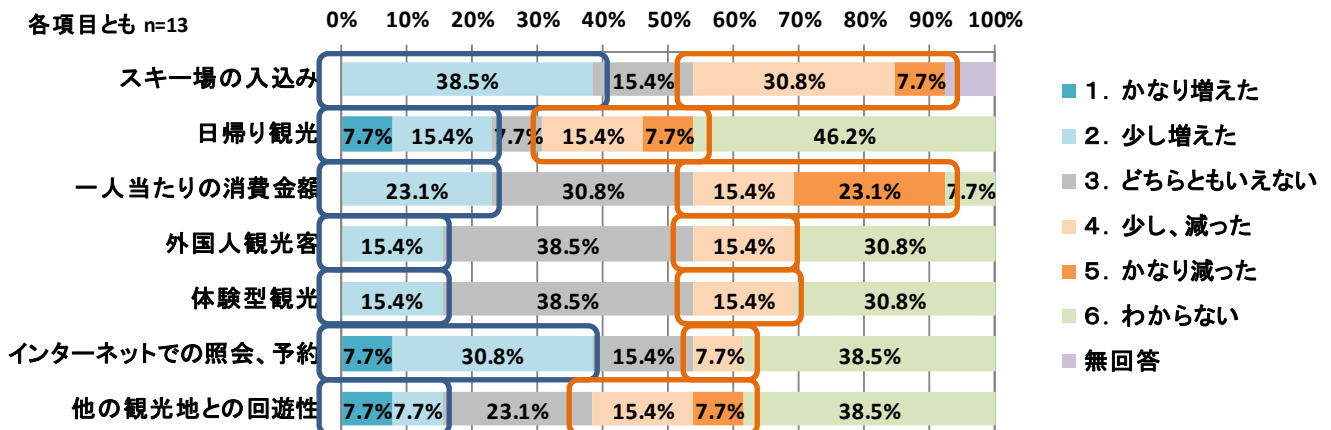
(1) 売上高



(2) 利用客数、来店客数など



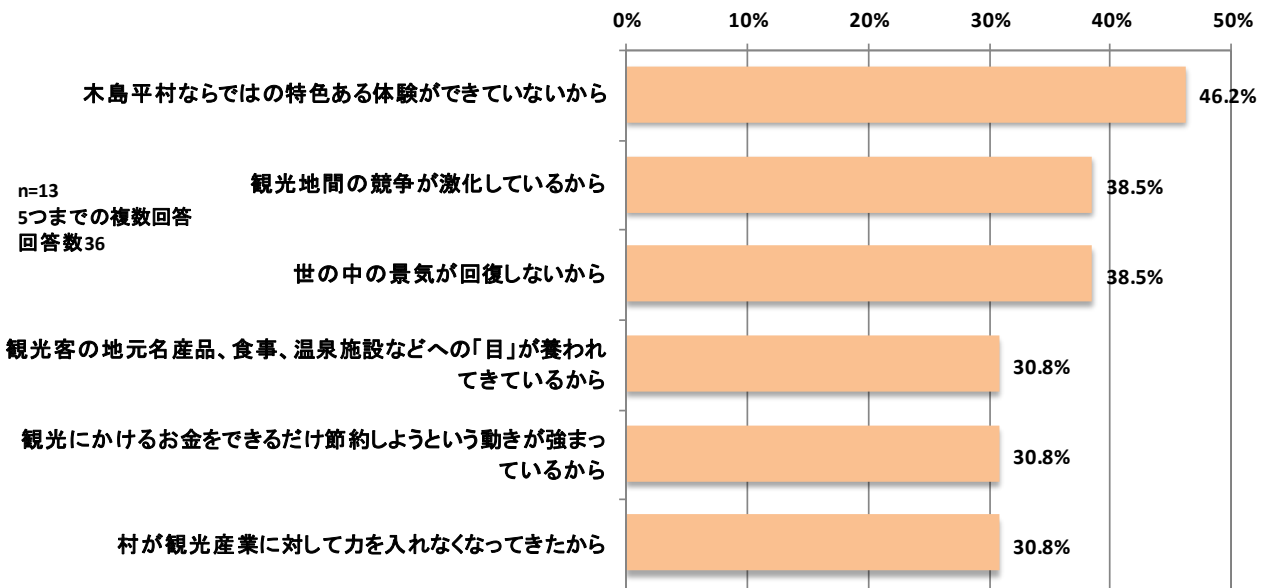
(3) 5年前と比べた木島平の観光産業の変化についての意識



※回答割合

★スキー場の入込み	増えた 38.5%＝減った 38.5%
★日帰り観光	増えた 23.1%＝減った 23.1%
★一人当たりの消費金額	増えた 23.1%＜減った 38.5%
★外国人観光客	増えた 15.4%＝減った 15.4%
★体験型観光	増えた 15.4%＝減った 15.4%
★インターネット照会、予約	増えた 38.5% ＞減った 7.7%
★他の観光地との回遊性	増えた 15.4%＜減った 23.1%

(4) 「減った」とみる理由

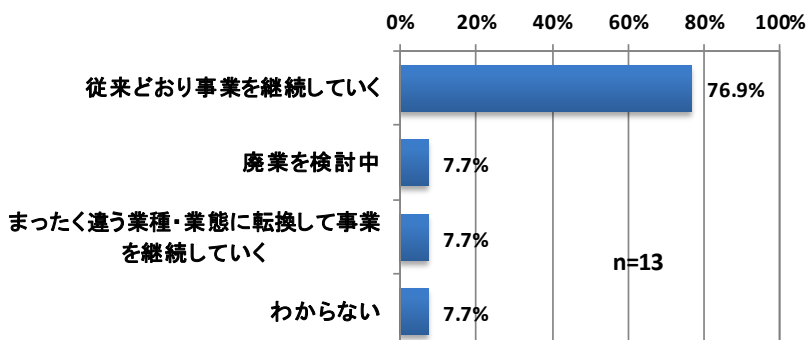


<ポイント>

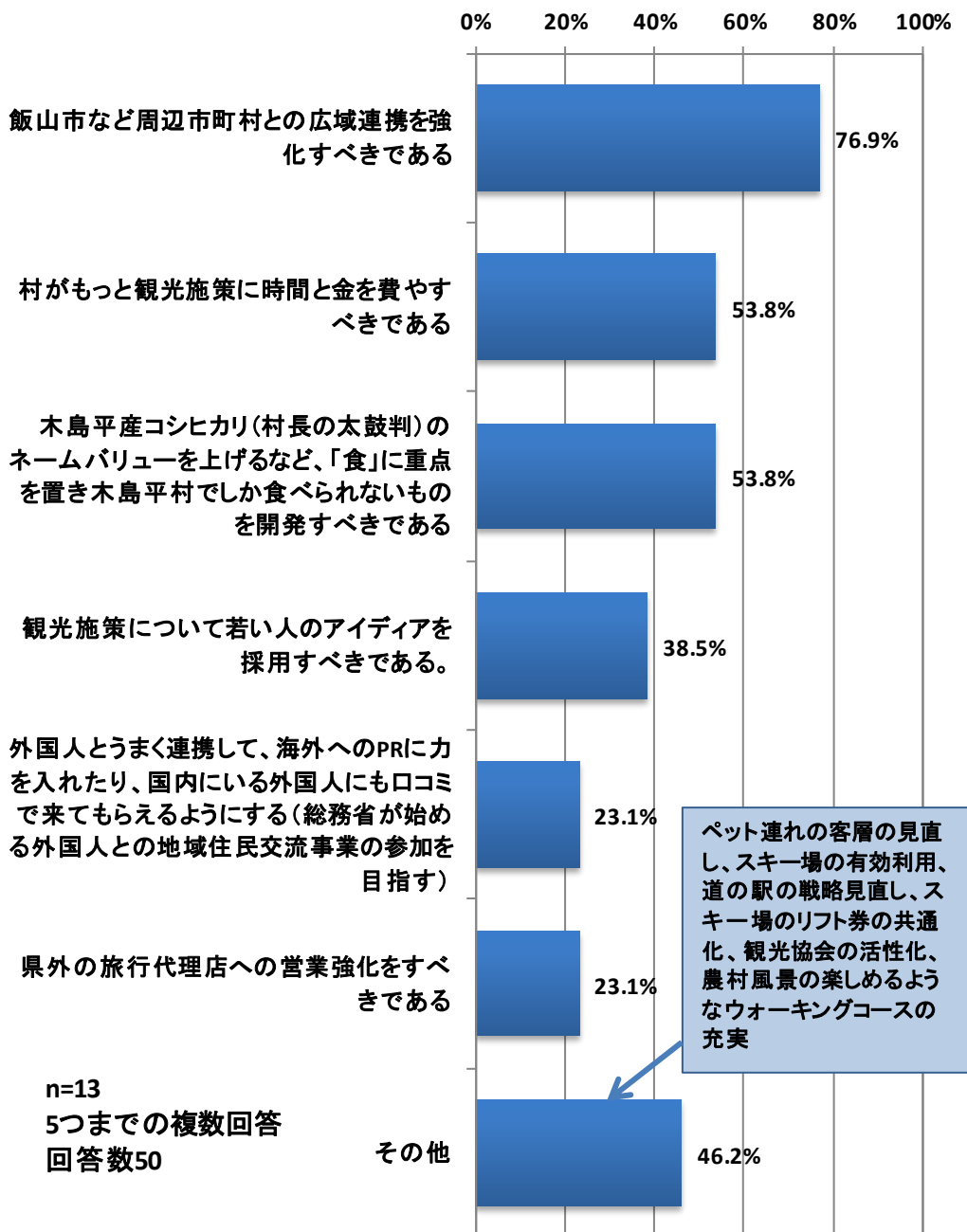
- ・売上高、利用客数などは「やや増えた」～「変わらない・横ばい」の意見が多い中、一人当たりの消費単価は「減った」とする割合が多くなりました。また、「他の観光地との回遊性」も「減った」とみる事業者の割合の方が「増えた」とする割合よりも多くなっています。
- ・「減った」とみる理由は、「木島平村ならではの特色ある体験ができていないから」の割合がトップであり、観光施策のポイントとなりうると考えられます。

4. 今後の事業展開、村の観光産業の将来

(1) 今後の事業について



(2) 村の観光産業の将来について感じるどころ

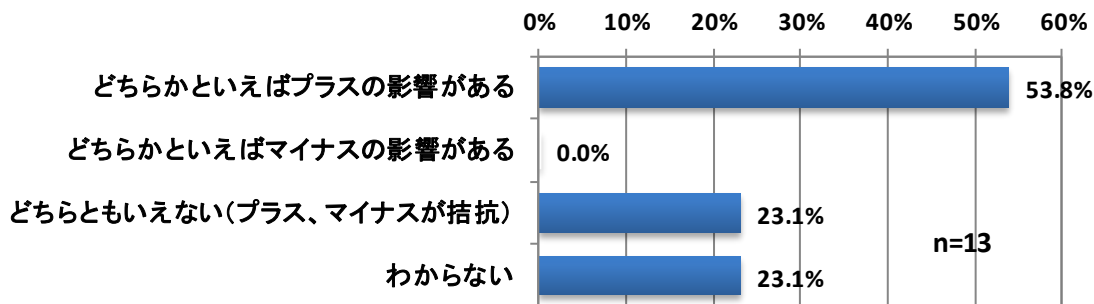


<ポイント>

- ・飯山市など周辺市町村との広域連携の強化をあげる割合がトップであり、村が単体で観光施策を打つには限界があると考える事業者が多いようです。
- ・村の「食」に関する商品開発や、観光施策についての若い人のアイデアなどを含め、村が観光施策に時間と金を費やすべきだとする声が強く伺えます。
- ・広域連携や民間企業との連携、大手旅行代理店との観光資源掘り起しなど、従来の観光施策を超えた斬新なアイデアも必要です。観光客の消費行動や意識の変化をしっかりとらえることも重要ですが、まずは木島平村の一番の「ウリ」とは何かを、もう一度村民とともに共有し、観光施策に反映していくことが必要です。

5. 北陸新幹線の延伸効果

(1) 延伸効果は



(2) その理由

問11内容	業種
飯山駅が新幹線の停車駅であることの知名度の向上。	宿泊業
移動時間が短縮された事によるメリット。滞在時間が長い分メニューを増加し十分楽しめるようにする。	宿泊業
長野駅での乗り換えがなくなり時間短縮できるので便利に。	宿泊業
外国人にとっては強力なインパクト。スキー誘客にもっと力をいれるべき。斑尾はすでに多くの外国人受入れに成功している(野沢に並ぶスキーリゾート)。越後湯沢を除いて木島平は日本で最も新幹線駅に近いスキーリゾート。信州で最も交通の便の良いスキー場である。この地の利を活かさない手はない。	宿泊業
どちらかといえば「ない」より「有る」方が良いから。まだ飯山駅で新幹線が止まらないと思っているお客様が多い。大学生等は高速バスを使用して飯山線で来村する人もいます(安いから)。良い点は小さな子のいる家族は新幹線利用を喜んでいきます。	宿泊業
後継者がいない事。自分も高齢者(78才)。	宿泊業
今後、木島平が列車で来られた方に適した滞在プランを提供できるか?にかかっていると思います。問9の15で記したように「歩」をテーマにした観光プランや農村体験を実施できるかどうか。	宿泊業
冬のスキー客は増えるかもしれないが車利用でない観光客が冬季以外で木島平まで足を運ぶかどうか?	宿泊業
弊社の営業はウインターシーズンのみでの為、新幹線の利用客にどの程度スキーに来る客がいるか。また昨年頃よりシルバー層が平日の利用が少し増えたような気がするので更にシルバー層が利用しやすいプランをJR及び近隣の市町村と検討してほしい。	飲食業
新幹線は始発点と終着点を今までより短時間で結ぶので両端地域にはメリットが多いと思うが、その途中の観光地は余程魅力がないと通過してしまいメリットが少ないと思う。北陸からのお客様には北信州の観光地は北陸の山側の観光地とあまり変わらないと思うので、わざわざ高い運賃を払って新幹線で来ないと思う。来るなら今までの方法(車、バス等)と思う。	その他
観光客が是非行ってみたいと思える様な観光の目玉がない事が一番問題で全ての項に関しての理由です。	不明
交通の利便性は確実にある。	不明

(村や商工団体等に求める施策、支援策など自由意見)

問12内容	業種
ペット連れの客層の見直しの提案。	宿泊業
観光は3本の産業が有機的に連携して初めて発展するものと思う。1、農業、2、商業、3、工業。	宿泊業
カヤの平のブナ林を残雪の時に見られるように林道の除雪を早い時期にやってほしい。飯山駅からのバスをスキー場・中央駐車場まで延長。	宿泊業
村観光(株)、観光協会、農村木島平のつながりをもっと強化し飯山地区の観光リーダーである飯山市と手をつなぎより広域で観光施策を打ち出してほしい。「農村」のコンセプトはよいが米がうまい地区は他にもある。よりわかりやすいPRを模索してもよいのでは?「日本で最も美しい村連合」に是非、加盟してほしい。	宿泊業
問9の15でも触れましたが、観光産業の信頼感が必要です。施設整備をしたくとも税の負担が多いので村外だけでなく地元の事業者にも税制面の優遇をお願いしたい。	宿泊業
1、村内個人宅等の庭園開放(オープンガーデン)。2、いつでも少人数でも受け入れ可能とする体験プラン、施設の充実。農村交流館、西町展示館、郷の家等を積極的に活用。3、ウォーキングコースとして遊歩道を村をあげて整備。4、村全体を公園化するような取り組み。	宿泊業
レジャー施設の充実化をオールシーズンにて検討してほしい。	飲食業
高社山山頂への整備がされていない(登山道、休憩所など)。山頂リフトが夏季25日程度運行されていますが、上には古い傷んだ避難小屋があるだけで観光客を呼べるようなお花畑があるわけでもなく、くつろげる場所もありません。さすがにこれでは山頂リフトを利用して景色を見に行きにくいと思う(往復930円は安くはないと思う)。	その他
木島平村来村のバス運行。1、広域観光。2、木島平村循環100円赤バスの運行など。	不明

北信管内の事業者に対する意識調査

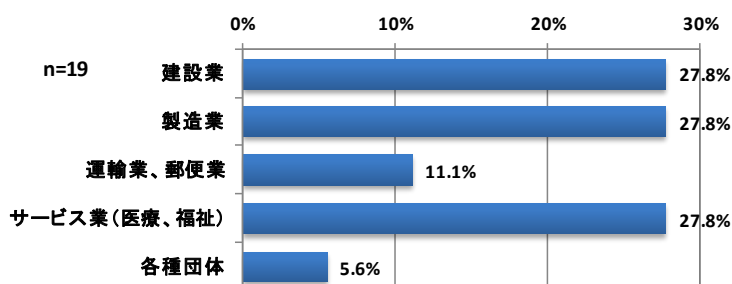
1. 調査概要

調査対象先	北信管内の従業員規模 10 人以上の事業者から 30 社を抽出
回答者数	19 事業者 (回収率: 63.3%)
調査期間	平成 27 年 6 月 11 日 (木) (発送日) ~ 平成 27 年 6 月 25 日 (木)
調査方法	郵送配布・郵送回収
調査内容	雇用、I ターン・U ターン採用、欲しい人材、企業としての子育て支援、行政に望む産業支援策、自由意見など

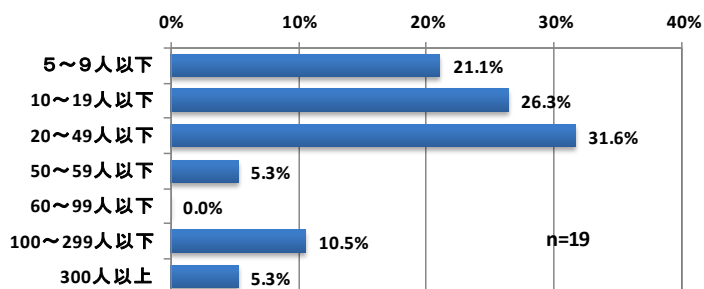
※回答サンプル数が少ないものがありますので、一部省略いたします

2. 回答者属性

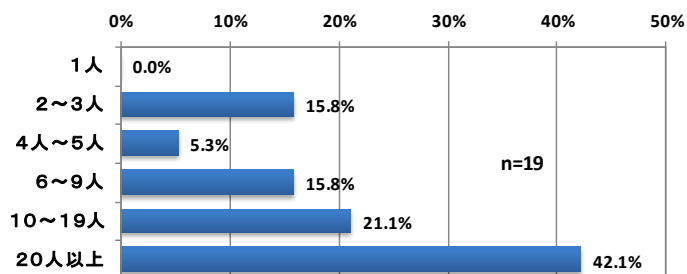
(1) 業種



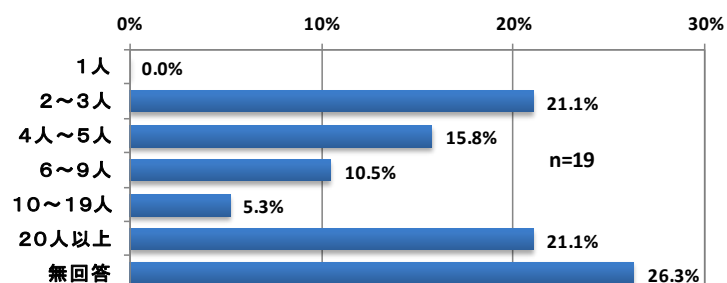
(2) 従業員数



(3) 正社員の人数

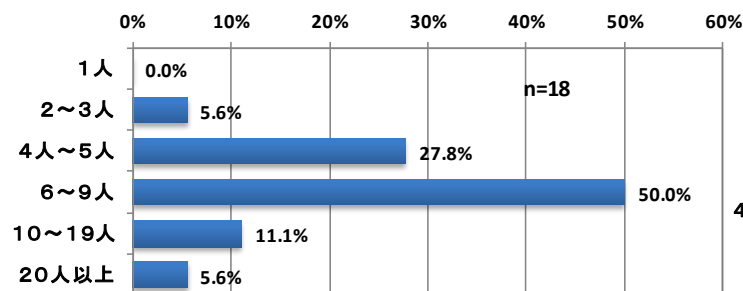


(4) 非正社員の人数

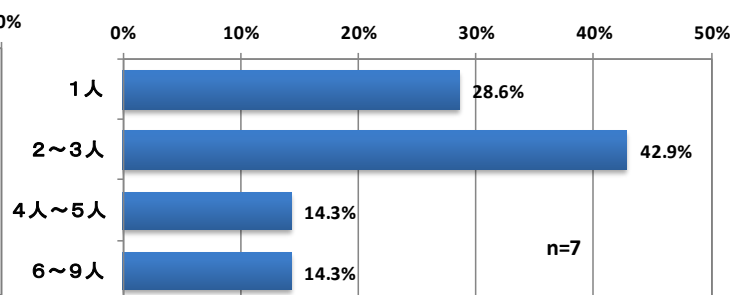


3. I ターン採用、U ターン採用

(1) I ターン採用 (県外出身者) の人数



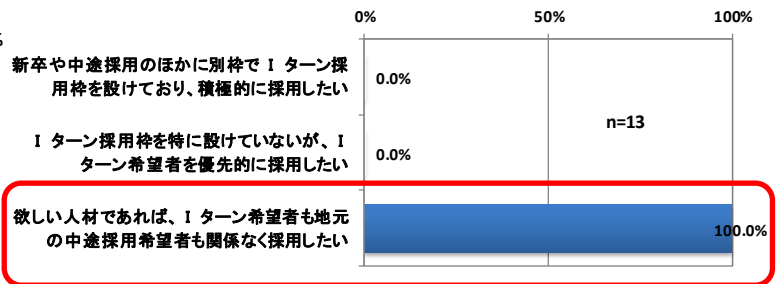
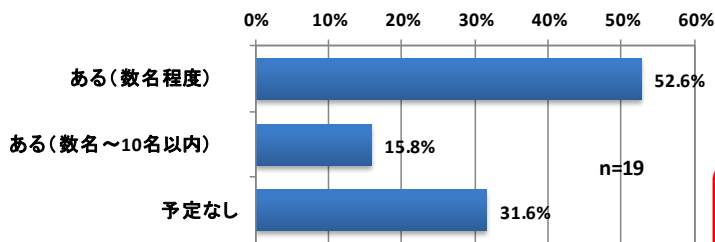
(2) U ターン採用 (県内出身者) の人数



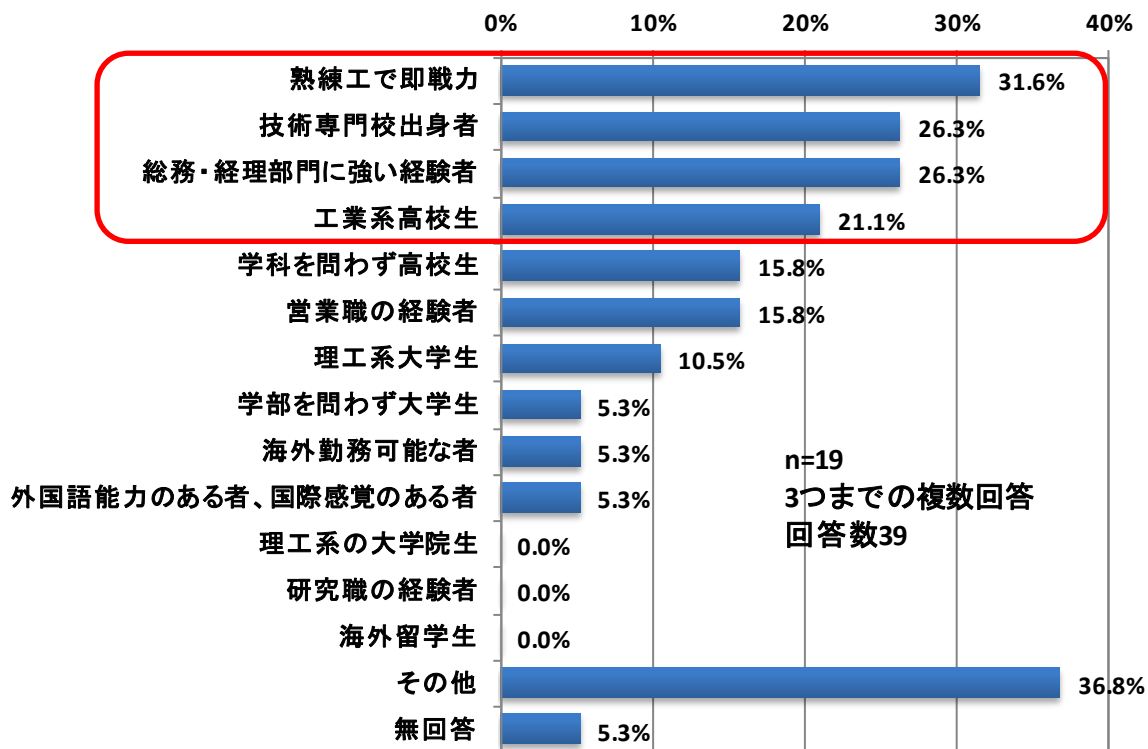
(I ターン者、U ターン者がいると答えた事業所のみで集計)

(3) 現在～3年程度の間に採用を増やす計画

(4) 採用の基準等



(5) 欲しい人材



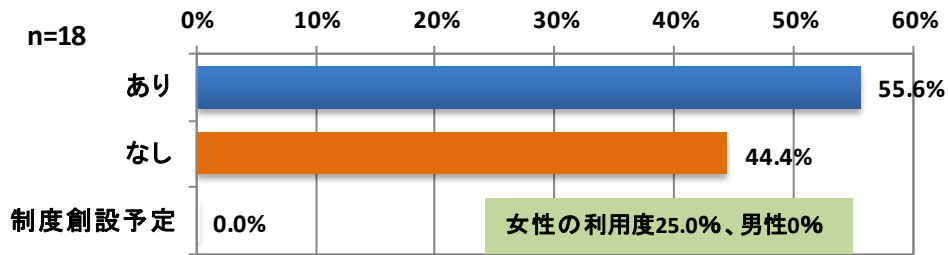
<ポイント>

- ・回答した事業所の多くで、Iターン者、Uターン者の採用がみられます。ただ、採用の基準については、欲しい人材であればIターン者でも地元出身でも関係なく採用したいと答えています。
- ・欲しい人材については、アンケート回答先の業種を反映して、「熟練工で即戦力」「技術専門校出身者」「総務・経理部門に強い経験者」「工業系高校生」などの回答割合が多く、人材不足を背景とした採用方針であることが推察されます。

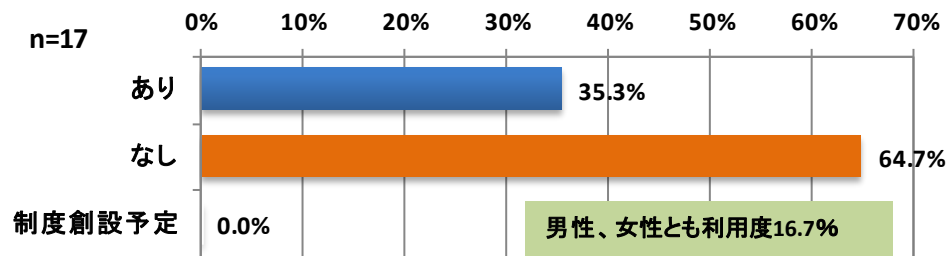
4. 企業としての子育て支援策とその利用（「無回答」を除いて集計）

（※利用度は「あり」と答えた事業者のうち「何人利用しているか」の項目についての延べ回答割合）

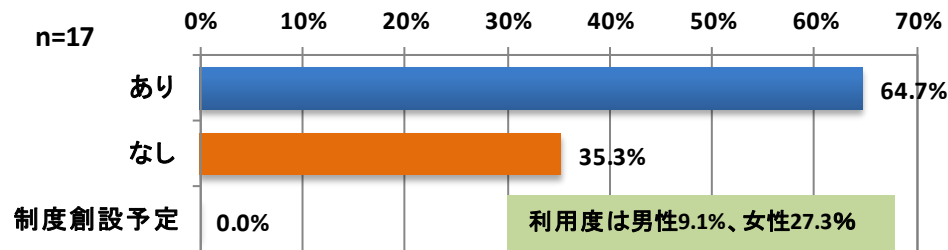
（1）育児休業制度



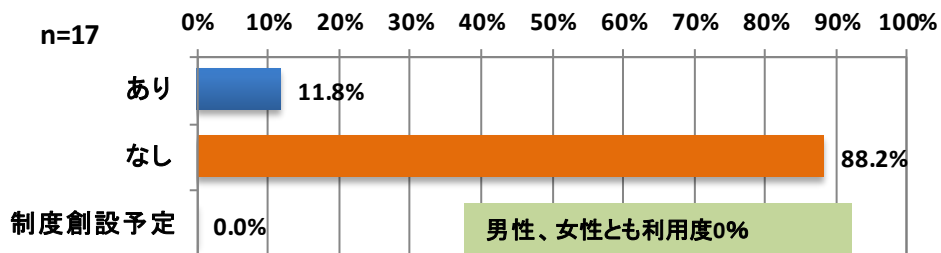
（2）子の看護休暇制度



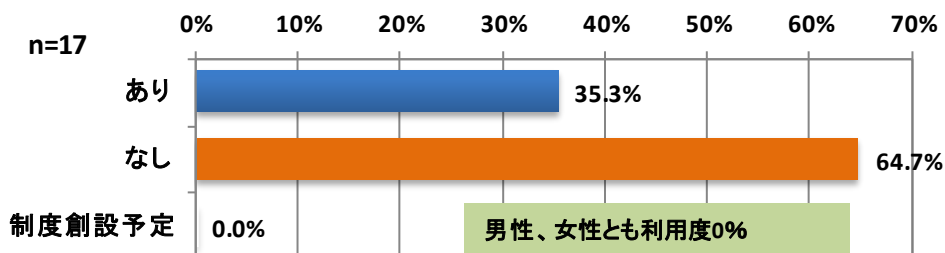
（3）短時間勤務制度



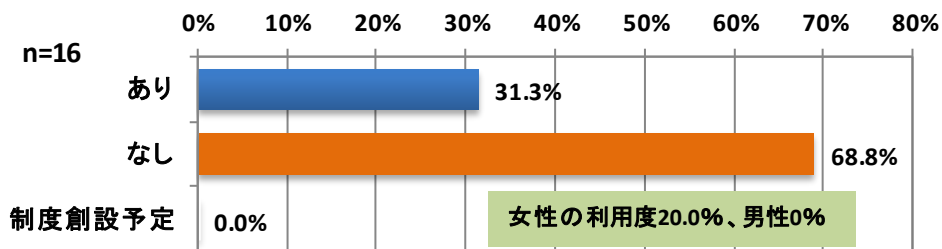
（4）フレックスタイム制度



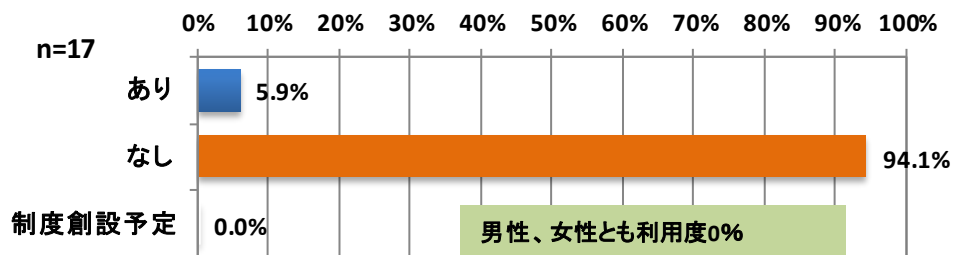
（5）始業・就業時間の繰上・繰下



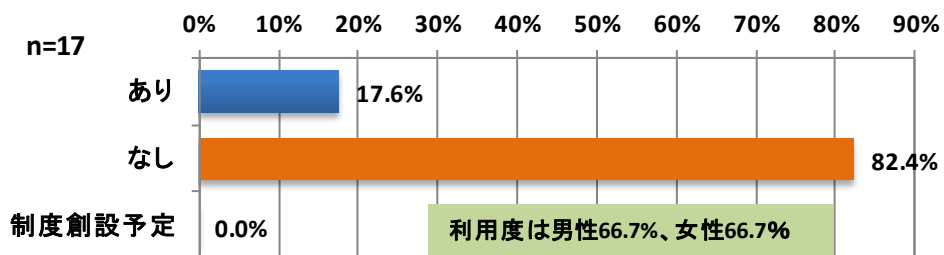
(6) 所定外労働時間の免除



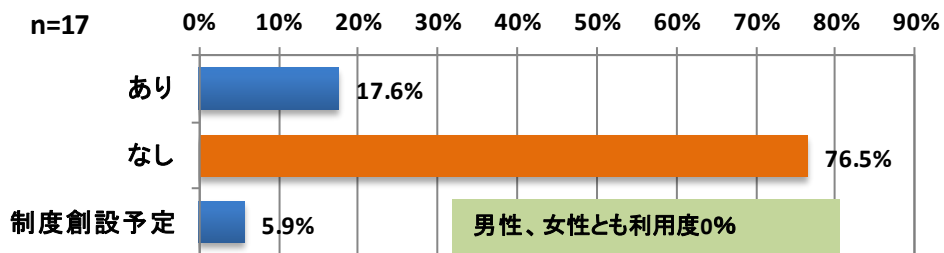
(7) 育児サービス利用の費用助成



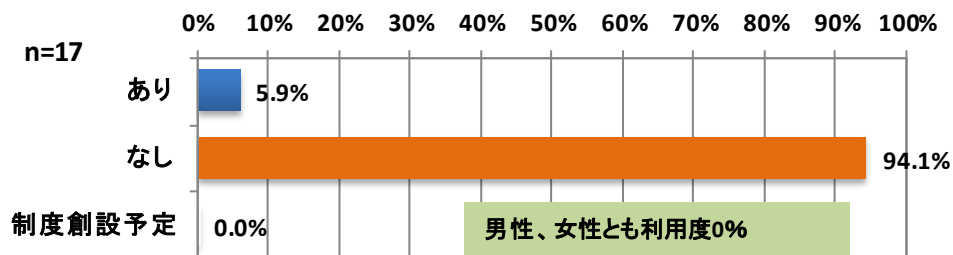
(8) 事業所内託児施設の設置



(9) 短時間正社員制度

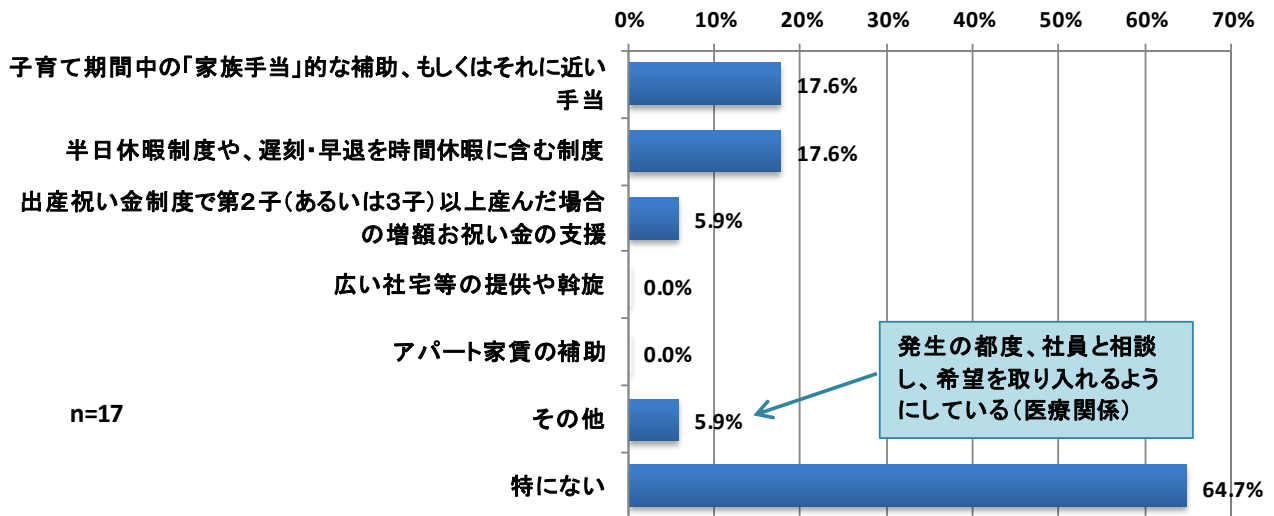


(10) 在宅勤務制度



5. 事業所としての社員の出産に関わる支援策

(1) 内容、制度

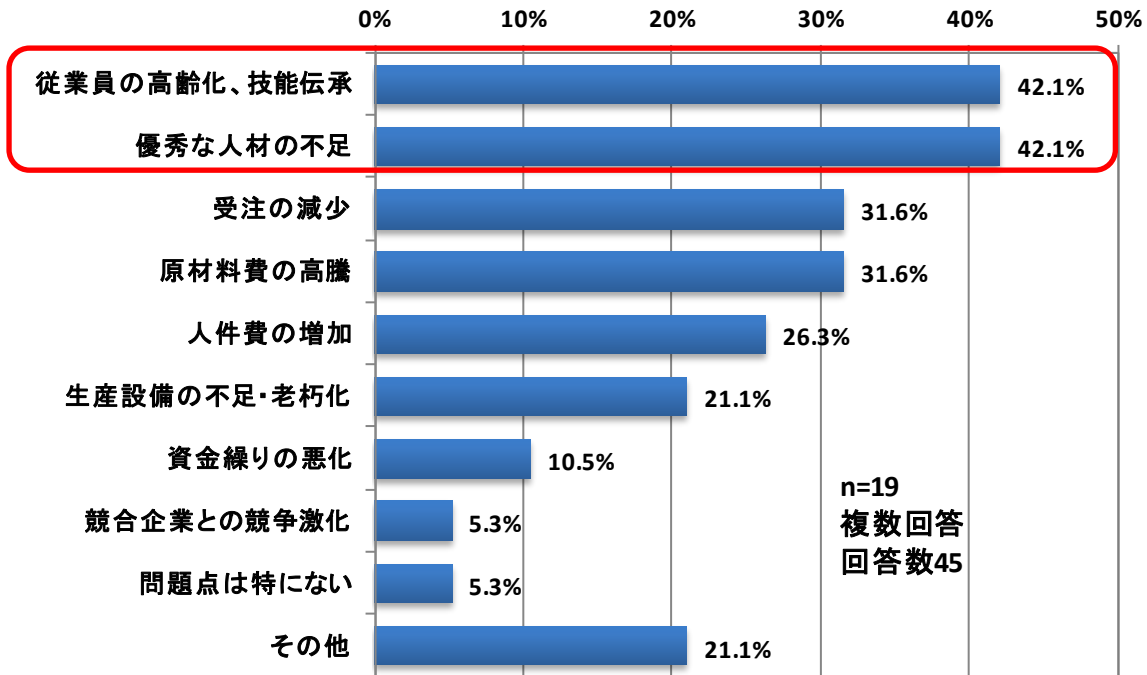


(2) 今後考えている支援策、行政に対する支援策、少子化に対する自由意見等

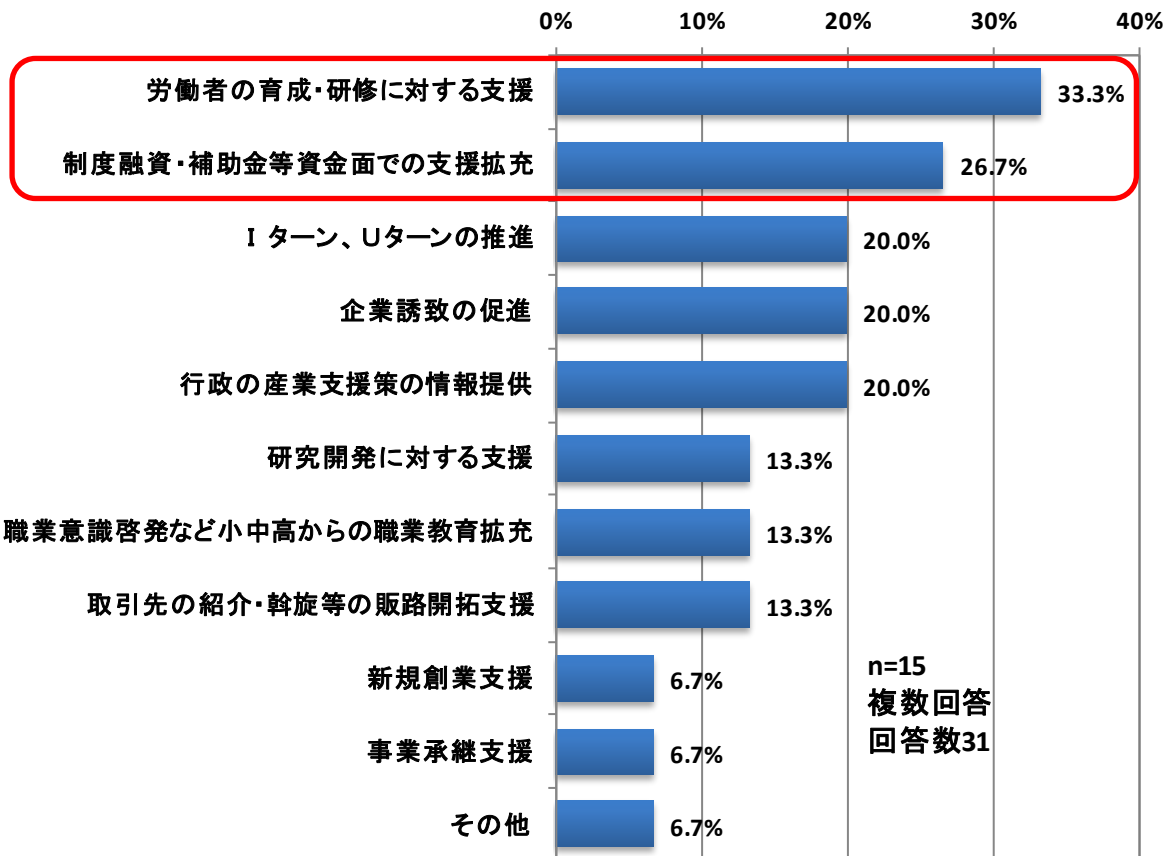
- ・中小企業を生かす事が一步の始まり。地域に魅力を感じてもらう事(運輸業)
- ・企業だけの助成は難しい。国・県・村から必要(製造業)
- ・社員とは都度、話し合い支援をして行きます。行政は単に職員数を減らすのでは無く定型業務はパート等に任せ、イベント行政から脱却をし休出・残業は代休 or 減らし村一番の人材の能力を村民、職員の為にも真の行政マンとして企画部門等で活躍してもらう(今は職務をこなしている状態)。こんな事をしたいがどうですかのアンケート方式にする(どうしたら良いかはダメ)(製造業)
- ・若い人及び独身者の交流の場(出会いの機会場所)がほしいです。イベント、祭りなどの企画、運営、ボランティアスタッフなど一緒に関わりがほしいです(食品加工業)
- ・特別な施策はあまり考えていません。しいて言えば外国人労働者をたくさん雇えるように法的な緩和を政治に求めます(各種団体)
- ・多くの企業の誘致(製造業)
- ・職人の手間が安いのが当たり前とされているうちは何をやってもダメ。職人を育てる事もできない。安い単価は魅力のない仕事になってしまう。低価格でしか落とせない入札にも問題がある(村に限る)。安い給料では子どもも育てられない現実がある(建設業)
- ・今のところ直面していないが、今後検討していきたい(建設業)
- ・未婚者などの増加(未婚者の高齢化を含め)行政等も積極的な交流や出会いの場を増やす事により、未婚者を減らし更には出産のしやすい環境作り不妊治療等への補助等ステップアップした支援策を行政に求める(建設業)

6. 行政に期待する産業支援策

(1) 経営上の課題



(2) 行政に実施してほしい産業支援策



(産業振興を図る上での自由意見)

問14内容	業種
後継者の育成に助成が必要。	建設業
岳北地域(一市三村)の合併を強く望み、その地域の力を基本とした、新幹線飯山駅を中心とした、地域全体を見ずえた新しい時代の地方の在り方、又、外国をも見据えた観光や農業の考え方で特有の地域カラーの出せる様に考える。	建設業
消費地ではないので生産地として製造して外への販売を考える。お客様は来るものではなく、こちらから出て行かないとダメ。企業誘致で人口を増加も必要。市町村合併が必要(大きなマーケットにしたい)。	製造業
飯水岳北地区内で働く場所の確保。例として大口工場の下請会社等の工場誘致を時間をかけて探す。特に若者が定着する村作りに力を入れるようお願いしたい。	運輸業
介護保険については現行の市町村単位ではなく広域にしてほしい。今の広域行政組合ぐらいにしないと小さな村ではサービスに差が付きすぎている現状です。	サービス業(医療、福祉)
優秀な人材育成が必要。	サービス業(医療、福祉)
狭い考えで無く、手を握れる所は一緒にどんどん進める。期待しています。頑張ってください。追伸、自分の事(アンケート)を他人にお願いしない(企画の仕事)。	不明